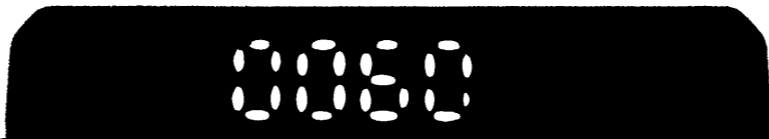




一
般

●
●
●
●
●

I-0323



記録件名 在外小学校教育員履歴書提出件
昭和三十二年六月二十二日

第二課

公第四八號

昭和三十年七月拾日發

有附屬物

昭和二年六月二十二日

在暹

特命全權公使 林 久 治 郎

外務大臣男爵岡田中義一 殿

去
後
星

(11502-18)
13115214

在外小学校教育員履歴書提出件
本年五月十三日付亞通合第
四四八号貴信ヲ以テ御申越、趣致
兼依テ當地日本人小学校教育長等
及暹羅語専科講師三名、
履歴書別添、通、夫々正別、通

在暹羅日本公使館

茲提出

追而右五月十三日付亞通合第
四四八号一引用セラルル者
上十二月十一日付亞通合第
五三號十ニハ當信ニ未着付右
様御承知相成度候申添

去
調子

履歷止書

本籍地

福島縣白河郡川崎村大字泉崎字館
二十八番地平民戸主

現住所

暹羅國盤谷府シーピア街六四六番

學業及資格

小林清平

明治三十八年六月二十八日生

一 明治四十四年三月二十日 福島縣立安積中學校卒業

一 大正三年三月二十日 東京府豊島師範學校本科第一部卒業

一 大正三年三月三十一日 小學校本科正教員免許收受領

職務

一 大正三年三月三十日 東京府北豊島郡泉鴨町仰高高等小學校

訓導主任 八級上俸

(東京府)

一 大正八年十月十日

東京府北豊島郡石神井東尋常小學校
訓導主任 學校長 主任 五級上俸 (東京府)

一 大正十一年九月十日

南洋廳ニ出向ヲ命ス (同上)

一 大正十一年十月十七日

南洋廳ヤツフ公學校訓導主任 學校長ニ
任ス 五級俸 (南洋廳)

一 大正十三年十月十日

四級俸給與 全日附依願免官
退職一時賜金千百圓給與 (恩給局)

一 大正十四年七月十日

盤谷日本尋常小學校訓導主任 學校長ニ任ス
三級上俸給與 (在盤谷領事館)

一 大正十五年九月十八日

三級下俸給與 (同上)

身上異動 賞罰ナシ

右之通相違無之也

右 小林清平

昭和二年六月二十日

四字排印
三字加フ

昭和三十二年五月五日

二級下俸給與

(同上)

履歷書

本籍地 茨城縣多賀郡原町三四六番地

平氏戸主

現住所 茨城縣若谷町五三番地

學業

河井為海

明治二十八年一月十八日生

一、大正二年三月二十五日 茨城縣立太田中學校卒業

一、大正六年五月十一日 東北大學醫學專門部卒業

資格及職務

一、大正六年九月七日 醫師登錄(登録番号四七五八)

一、大正十一年十月六日より引續き盤若日本医院

奉職中

一、大正十五年六月一日 盤若日本小學校之医嘱託

一、身上異動ナシ

一、賞罰ナシ

右之通相違無之者也

右河井為海



昭和二年六月二十日

履歷書

本籍地 東京府南葛飾郡寺島町大字寺島
千七百九十番地 平良戸主
現住所 暹羅國盤谷府バンヌウ街五五三番

學業又職務

三谷 日生
明治二十九年九月二十九日生

- 一、大正十一年四月一日 東京獸醫學校卒業
- 一、當地ニ於テ出生十歳ノトキ上京シ尋常小學校ヲ卒業青山學院四年修業再度渡暹シテ大正七年三月當地ニ於テシヤム語ヲ學ビ
- 一、大正十五年九月三十日 盤谷日本小學校シヤム語

事科 囁托ヲ命ゼラル

- 一、身上 豊勳ナシ
- 一、賞罰 ナシ

右ニ通相違無クモ也

右

昭和二年六月廿日 三谷 日生

信附屬件
領事來信
昭和二年六月二十八日
普通機密
第48号

履歷書

本籍地 東京府南葛飾郡寺島町大字寺島
千七百九十番地
現住所 暹羅國盤谷府バンセンワ街五五三番地

學業及職務

三谷日生
明治三十九年九月二十九日生

- 一、大正十一年四月日 東京獸医學校卒業
- 一、當地ニ於テ出生シ十歳ノトキ上京尋常小學校ノ課程ヲ修了シ青山學院入學四年修了リ再度渡暹ロ大正七年マテシヤム語ヲ學ブ
- 一、大正十五年九月三十日 盤谷日本小學校ニヤム語

專科囑托ヲ命ゼラレ

- 一、身上異動ナシ
- 一、賞罰ナシ

右ニ通相違無之也

昭和二年六月二十日 右 三谷日生

在外日誌人署名及教員署名係
盤谷日本小學校長 三谷日生

信附屬件
來日
領事館
昭和二年六月二十八日
在昭通第

履歷書

本籍地 茨城縣多賀郡磯原町三四六番地

現住所 シヤム國バンコック府バンモウ街五五番

平民

學業

河井為海

明治二十八年一月十八日生

一、大正二年三月二十五日 茨城縣立太田中學校卒業

一、大正六年五月十二日 東北帝國大學醫學專門部卒業

資格及職務

一、大正六年九月十七日 醫師登録(登録番号四一七五八)

一、大正十一年十二月六日 引續き 盤岩府日本醫院ニ

奉職中

一、大正十五年六月一日 盤岩日本小学校之區嘱託

一、身上異動ナシ

一、賞罰ナシ

右之通相違無之矣也

右 河井為海

昭和二年六月二十日



公第 八九 號

昭和六年七月二十五日

在 暹

臨時代理公使高 津

富 雄

外務大臣 丹 爵 幣 原 喜 重 郎 殿

整谷日本人小學校々長候補者推薦方ノ件

當地日本人小學校ニ於テハ現任校長ハ昭和七年三月末ヲ以テ任期滿了
歸朝ノ豫定ニテ新任校長備聘ノ必要アル事ニテ同校經營者日本入會ヨ
リ其ノ候補者推薦方ヲ富雄迄願出タルニ就テハ別紙ノ通り同會申出ノ
案件ニ基キ可然筋ニ御照會ノ上適當ナル候補者紹介方御取計相煩シ度

昭和六年八月廿四日



此段申進ス

BII

BI

I-0323

昭和六年七月十六日

左盤谷

暹羅國日本人會長河井一為



左盤谷
帝國領事高津富雄殿

内申書

本會經營ノ盤谷日本人小學校長小林清平氏ハ昭和
七年三月末日ヲ以テ任期満期ト相成候ニ就テ後任
學校長ヲ備聘致度矣付左記條件ヲ御
鈐御方相願度候段奉願矣也

左記

一、身体强健ニシテ言葉ニ訛リナキ者

盤谷日本尋常小學校用箋

一、尋常師範學校本科卒業者

一、契約期間三年

一、俸約五級俸程度（俸給ハ日本金ヲ以テ支給ス）

一、在勤手當遺賃七十五錢

一、年束手當本俸及手當一分割分

一、旅費片道六百圓（但シ家族ノ有無ニ不問）

一、住宅日本人會ノ一部ヲ貸代提供ス

一、俸給ハ着任翌日ヨリ起算シテ支給ス

一、着任期ハ昭和七年三月末日マデ到着ノト

日教ニテハ
八二號
百七十月

(分類I 1,570.2-18)

亞細亞局

領公第一〇三號

昭和五年九月十日

在盤谷

領事 高津 富

雄

外務大臣男爵幣 原 喜 重 郎 殿

盤谷日本人小學校職員異動ニ關シ報告ノ件

當館管内日本人小學校職員ノ異動ニ關シ本年八月三十一日附ヲ以テ
左ノ通發令シタルニ付各辭令寫一通竝ニ柏原代用教員及ナイサイ囑
託ノ履歷書各二通相添此致報告申進ス

記
在外日本人小學校
昭和五年九月十日
高津富

昭和五年九月十日

昭和五年拾月拾五日接受

記

- 一、依願盤谷日本尋常小學校暹羅語教授囑託ヲ解ク
ナイ、プランソ
 - 二、盤谷日本尋常小學校暹羅語教授囑託ヲ命ス
但シ月俸退賃二十五銖給與 ナイ、サイ
 - 三、盤谷日本尋常小學校代用教員ヲ命ス
但シ月俸退賃三十銖給與 柏 原 豪
- 以上昭和五年八月三十一日附

BIT

I-0323

寫

暹羅語教授囑託ヲ解ク

昭和五年八月三十一日

在盤谷 帝國領事館

盤谷日本尋常小學校

暹語囑託 ナ イ、プ ラ ソ ン

B11

寫

盤谷日本尋常小學校暹羅語教授ヲ囑託ス

但シ月俸暹貨貳拾五銖給與

昭和五年八月三十一日

在盤谷 帝國領事館

ナ イ、サ イ

B11

I-0323



柏原 豪

盤谷日本尋常小學校代用教員ヲ命ス
但シ月俸退賃參拾銖給與

昭和五年八月三十一日

在盤谷 帝國領事館

BII

I-0323

履歷書

住所

盤谷

シーチヤロニ小學校

タイサイソワン

西曆一九〇八年三月十六日生

學業

西曆一九二六年三月

盤谷ソワングクラブカレッジ卒業

職業

西曆一九二六年四月

盤谷シーチヤロニ小學校教師拜命

引續キ目下奉職中

西曆一九三〇年八月

盤谷日本尋常小學校暹羅語科嘱託

盤谷日本尋常小學校用箋

月俸遣貨貳拾五銖給與

右之通相違無之候也

昭和五年九月一日

右

Nai Sai Swasdi Swa

履歴書

住所 盤谷

シーヤロン小学校内

ナイサイソワシ

西暦一九〇八年三月二十六日生

學業

西暦一九三六年二月 盤谷ソワシクラブカレッジ 卒業

職業

西暦一九三五年七月 盤谷シーヤロン小学校教師拜命

引續き日ニ奉職中

盤谷日本尋常小学校用箋

西暦一九三〇年八月 盤谷日本尋常小学校後進四科嘱託

月俸遣賃貳拾五銖 給與

右之通相違無之候也

昭和五年九月一日

右

Handwritten signature in Thai script

Rai Sai Swasdi Swang

履歴書

本籍地 長野縣埴科郡木村二二九番地

現住所 盤谷府ハシロ一街五五三日本醫院内

族籍 平民 日文 長男

柏原 高久

明治三十四年三月十五日生

大正五年三月 長野縣埴科郡代町尋常高等小學校卒業

大正五年三月 長野縣松本中學校卒業

大正五年四月 東京高等造園學校入學

昭和三年三月 暹羅國渡航中退學

盤谷日本尋常小學校用箋

大正九年九月 長野縣埴科郡沓瀨下尋常小學校代用教員拜命

月俸三十五圓給與

大正十一年四月 依願退職

昭和五年八月三日 盤谷日本尋常小學校代用教員拜命

月俸暹銀三銖給與

賞罰

右之通相違無之候也

昭和五年九月一日

右 柏原

高久

電信課長

大臣

次官

亞細亞
歐米
通商
條約
情報
文化
人事
文書
會計

寫送先

分類 E.5.0.2-18

昭和7 二八三

略

盤谷 本省

一月六日後着

亞二

犬養外務大臣

矢田部公使

第一號

春年公第八九號拙信ニ關シ

現任校長ノ歸朝其他諸準備ノ都合モアル處後任校長御詮衡ノ件ハ其
後如何相成リ居ルヤ至急御電示相煩シ度シ

在外日本人學校教育關係雜件
盤谷市各校

外務省

I-0323

送第 705 號

7年/月16日 午前4時 分發

電 信 案	目下平配中ナリ	貴電第1第ニ関シ	平 論 第 四 號	宛 在暹羅 夫田部公使	件 暹羅國日本女子學校 採用1件	管主 亞細亞局長 主任 亞細亞局長 (起草昭和7年1月16日)
				發 井ノ口長	名込綴 暹羅國日本女子學校	

電信課長

電信案

(原議用紙甲)ナ

相場

3.2

I-0323

文書課長

公 信 案

(原議用紙甲)

文書課發送

淨書

正(原稿)

(淨書)

官報之管主任(栗原)

主 管 亞細亞局長

主 任 亞細亞局長 (起草昭和七年一月十日)

昭 和 年 月 日 附

附 屬 書 通

官報掲載

受 信 官報廣告掲載案

發 信 亞細亞局長第二課

件 名 暹羅國日本小學校放負

名 暹 羅 國 日 本 小 學 校 放 負 募 集 案

急

在外小學校放負募集

官報掲載

I.5.0.2-18

懸案

公 信 案

外 務 省

暹羅國盤岩日本尋常小學校ニ於テ左記條
件ニ依リ同校訓導兼校長ヲ求ム、希望者

履歷書、身辨検査書、戸籍謄本、及写真

添付一月日迄ニ當有亞細亞局長第二課宛願

書提出セラルヘシ

昭和七年一月

外務省

資格 師範學校本科卒業ノ小學校本科正放負ニ

シテ身中法健、言葉ニ訛ラズ

給與 月俸五級俸程迄(金支給)在勤月手与

公 信 案

外 務 省

(285)

I-0323

第三編

啓 御 敏 系 務 の と こ う 誠 に 恐 れ 入 り 候 旨 の 目 下
暹 羅 國 盤 谷 日 本 專 学 小 學 校 に 訓 導 甚 長
中 の 由 小 生 希 望 致 居 り 候 由 幸 齡 の 辨 限 或
は 在 職 年 限 等 に 制 限 無 又 候 哉 乍 御 手 教
以 教 示 下 度 以 敬 心 申 上 候

五月 廿五日

稿 中 一 画

I-0323

No. 2

一、 教育者として、教育者としての資質を高めることである。

二、 三年間の契約は、如何なる意味を帯びておられるか。三年間の後、如何なる方針を執られるか。三年以内におもむくべき事項は、何であるか。

三、 日本人の学校の生徒に、職業教育を施すことであるか。

右三項目に候、何れも且致し申上存候。

草々

KUNINOHANA

No. 1

一、 教育者として、教育者としての資質を高めることである。

二、 三年間の契約は、如何なる意味を帯びておられるか。三年間の後、如何なる方針を執られるか。三年以内におもむくべき事項は、何であるか。

三、 日本人の学校の生徒に、職業教育を施すことであるか。

右三項目に候、何れも且致し申上存候。

草々

KUNINOHANA

I-0323

1. 募集人員は何名ですか。
 2. 校長兼訓導とありますが校長訓導の兼任を意味するのですか。
 校長及び訓導の兼任ですか。
 3. 三ヶ年より長く居る事は出来ぬのですか。内地へかへつてから復職は差支ふのですか。
 4. 内地へかへつてからの復職の滞り俸給は如何にありませうか。
 5. 内地へ在勤の五給俸といふのは公立学校訓導の俸給ですか。
 6. 任用方針として校長訓導の兼任出来る位の年俸率と復職を必要としませうか。又單なる訓導と同一の人間でも差支ないのですか。
 7. 送附に當つて一定の形式(紙類の如き)を取られますか。

私の用箋

本校内地小学校教員が行くべき方向について大いに懸念して居ります。さつと海外に出たい。と考へて居りました。小學校教員と一ヶ年してあきたらず、専攻科へ入ったかやけり卒業後三ヶ年をたつて居りけれども不満足あり。おまゝ教員を志して師範卒業の收れを為す所の命を返へても五十七月の訓導、専攻科卒業當時台湾を志して校長を全くとめられ、赴任して三ヶ年増俸なき野の内規により五十月の専攻科へ入り七月上つて三ヶ年こうして居ります。只今ふき募集を知つて躍る心物へ難く、官報にて不明の真意は、さう次第の事。是非「新報」の「一着を上げて下さい、五ヶ年の志願者様と存じて居ります。さあ志願者ある事わさうか、何事——は、次第「新報」を提出いたしますから「新報」をいたします。

西郷重房第三専攻科

新報記者南條宗三様へ

三條宗三様へ、新報記者南條宗三様へ

私の用箋

一、
方々方々ニ送シテ、現奉 候 野 子 事 古 分 ト 申 請
解 阿 利 子
阿 利 子 好 都 々 ト 云

乙 號 ①

外 務 省

I-0323



新設

本年一月九日の官報に在印小学校教員募集募集の旨を記し
白人有志等が之に賛同し候ハニ三ノ件一 考案迄に
申致示下され候中云々



No. 1

一 備聘契約の期を三年とせよ、契約の満期の場合
更改契約可成り候や否や、契約期満後
一身に就き自己に就職等の心配をなす事ありや否や、
或は當局に於て適者に按れ指送り候と云ふ事ありや否や
や 如何
二 待遇一 月俸五俵とせば、利便の立派俸(五俵を意味する也)
請給の文は今日本国会に在りや否や(字跡上)
三 教員の任免 待遇に同じ候事、其土地の給与、或は公使が取扱
ふや 或は外務省が直接一取扱ふや 如何

白柳子

No. 2

四 聖谷日小学校の生徒数は何程ありや 如何
五 現職の今番知政に奉職中一なるか 去れ前職
管知政當局の了解が如何なるや 如何
六 其地 考案と成る矣 或は指送り候事
是の如く申下され候中、如何なるに、如何なるに
如何なるに、如何なるに、如何なるに、如何なるに

敬告

四初七日一月廿二日
名寄屋中東道杉村町松宮初九日
外務省亞細亞局才二係係
白柳子

白柳子

I-0323

相登

今朝の揚示に有成人をシヤム國

盤於小學校教員昔有集の件に就て昭

令降るに記し給ふ事は素其の至

たし給ふ

資格師範學校科卒業と相三共とい

小生中學校卒業後師範講習科に小生

校舎科正教員免許状を得る者には

如何に可也

昭應

昭應

昭應

昭應

昭應

昭應

昭應

I-0323

文書課 長 米原

文書課發送 昭和七年 閏月 廿九日 發送済

淨書

正(原稿)

(原議用紙甲) +

主 任

(起草昭和 7 年 1 月 27 日)

機密 第 1 号 信 封

昭和 7 年 閏月 廿八日

附 屬 書 通

受信 新潟県南蒲原郡 三ノ宮

送信 外務省 五細 郵局

人名 三ノ宮 幸次郎 三ノ宮 幸次郎

名 第二課

件名 「三ノ宮 幸次郎」 三ノ宮 幸次郎

名 (三ノ宮 幸次郎) 三ノ宮 幸次郎

本件三ノ宮 幸次郎 氏 宛 照 會 書 宛 付 送 達 履 行

監 査 日 記 十 号 校 教 員 考 査 一 件 記 事 内 容

知 事 宛 送 付 及 申 請 書 等

公 信 案

外 務 省

乙 號 ①

記

一 簿 籍 期 間 至 過 後 十 号 校 考 査 者 上 一 誌 合 二 依

リ 十 号 期 間 延 長 三 二 十 日 得 上 申 書

二 十 号 期 間 延 長 ノ 情 報 十 号 校 考 査 者 上 一 誌 合 二 依

セ ン じ ン 一 二

三 由 地 部 課 長 十 号 校 考 査 者 上 一 誌 合 二 依

等 考 査 者 上 一 誌 合 二 依

四 十 号 校 考 査 者 上 一 誌 合 二 依

考 査 者 上 一 誌 合 二 依

三 十 号 校 考 査 者 上 一 誌 合 二 依

外 務 省

鳴鶴教員ニ在ニシテノニ等級編制ナリ

外務省

乙號

I-0323

吉田幸太郎	伊藤都居	沖行喜	内藤恭博	樋上得三郎	神城 勲	泉 常五郎	小林恭治
四一	三〇	三一	二九	二五	二七	五一	二六
アリ	ナニ	アリ	ナニ	ナニ	ナニ	アリ	アリ
宮城縣	新潟縣	島根縣	福井縣	兵庫縣	北海道	鹿野縣	新潟縣
皇城中学校卒	新潟県立第一中学校卒	島根県立第一中学校卒	福井県立第一中学校卒	大府市立第一中学校卒	札幌市立第一中学校卒	新潟県立第一中学校卒	皇城中学校卒
本正	本正	本正	本正	本正	本正	本正	本正
札幌市立第一中学校	新潟県立第一中学校	島根県立第一中学校	福井県立第一中学校	大府市立第一中学校	札幌市立第一中学校	新潟県立第一中学校	皇城中学校
外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省

高木 寛	沢田 聖一	石川 善雄	阿部 禎次	小林 武志	武井 伊三次	姓 名
二八	二五	三三	四七	二九	二六	教年
ナニ	ナニ	アリ	アリ	ナニ	ナニ	配過
千葉縣	福井縣	靜岡縣	新潟縣	福島縣	埼玉縣	原籍
青山市立第一中学校	福井県立第一中学校	静岡県立第一中学校	新潟県立第一中学校	福島県立第一中学校	埼玉県立第一中学校	出身学校
本正	本正	本正	本正	本正	本正	資格
青山市立第一中学校	福井県立第一中学校	静岡県立第一中学校	新潟県立第一中学校	福島県立第一中学校	埼玉県立第一中学校	現職
外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	備考

27才
30才
31才

I-0323

持菊

30X	29X	28X	27X	26X	25X	24X	23
木田正寛	于良仲次郎	竹桐主介	荻原太郎	池谷伊太郎	桐垣正	中村章明	清水伴治
三四	三五	二六	四五	四二	二八	二五	三三
	アリ	ナシ	アリ	有婚	ナシ	ナシ	ナシ
大阪府	神尾縣	福島県	長野県	静岡県	愛媛県	埼玉县	新潟县
存修花才一部半	県立中學校 体育科才一部	県立中學校 才一部	私立中學校 才一部	縣立中學校 才一部	縣立中學校 才一部	縣立中學校 才一部	縣立中學校 才一部
本 伍長	本 中校 船務	本 才	本 才	本 才	本 才	本 才	本 才
京下制守 五〇日	京下制守 一〇〇日	京下制守 五〇日	京下制守 五〇日	京下制守 五〇日	京下制守 五〇日	京下制守 五〇日	京下制守 五〇日
音教不備	音教不備	音教不備	音教不備	音教不備	音教不備	音教不備	音教不備

外務省

22X	21X	20X	19X	18X	17X	16X	15X
児島莞爾	更科宗喜	小田啓夫	遠藤才三郎	小林幸三郎	笠手豊備	新沼末吉	吉野五雄
四〇	三九	二一	四三	三一	二四	二二	二五
南緯	アリ	アリ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
岐阜県	新潟县	福岡县	福島县	群馬县	東京府	新潟县	東京府
県立中學校 才一部	県立中學校 才一部	縣立中學校 才一部	縣立中學校 才一部	縣立中學校 才一部	縣立中學校 才一部	縣立中學校 才一部	縣立中學校 才一部
本 正	本 正	本 正	本 正	本 正	本 正	本 正	本 正
京下制守 八五日	京下制守 七三日	京下制守 七五日	京下制守 七五日	京下制守 七五日	京下制守 七五日	京下制守 七五日	京下制守 七五日
音教不備	音教不備	音教不備	音教不備	音教不備	音教不備	音教不備	音教不備

外務省

I-0323

46	45	44	43	42	41	40	39
中島 豊	南田 覺一	神代 市彦	柴田 貞次郎	野田 高寛	石田 貞一	田村 久次	竹内 四郎
二七	二九	二七	二八	四〇	二三	二三	三〇
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
長野 県	埼玉 県	山口 県	青森 県	長崎 県	千葉 県	埼玉 県	兵庫 県
県立 飯沼 小学校 一部	県立 中野 小学校 一部	県立 萩 小学校 一部	県立 青森 小学校 一部	県立 長崎 小学校 一部	県立 千葉 小学校 一部	県立 埼玉 小学校 一部	県立 兵庫 小学校 一部
本心	本心	本心	本心	本心	本心	本心	本心
県立 飯沼 小学校 一部	県立 中野 小学校 一部	県立 萩 小学校 一部	県立 青森 小学校 一部	県立 長崎 小学校 一部	県立 千葉 小学校 一部	県立 埼玉 小学校 一部	県立 兵庫 小学校 一部
六〇	六〇	六〇	六〇	九〇	五〇	五〇	八〇
外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省

38	37	36	35	34	33	32	31
津 順治	藤本 存三	野村 貞之雄	村田 静雄	寺島 功時	上野 榮一	平賀 春吉	渡辺 秋策
二六	二九	三〇	二三	四〇	二九	二八	二二
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ
青森 県	新潟 県	山口 県	群馬 県	千葉 県	新潟 県	新潟 県	新潟 県
県立 津 小学校 一部	県立 藤本 小学校 一部	県立 野村 小学校 一部	県立 村田 小学校 一部	県立 寺島 小学校 一部	県立 上野 小学校 一部	県立 平賀 小学校 一部	県立 渡辺 小学校 一部
本心	本心	本心	本心	本心	本心	本心	本心
県立 津 小学校 一部	県立 藤本 小学校 一部	県立 野村 小学校 一部	県立 村田 小学校 一部	県立 寺島 小学校 一部	県立 上野 小学校 一部	県立 平賀 小学校 一部	県立 渡辺 小学校 一部
八〇	五五	八〇	八〇	七〇	七〇	六〇	五〇
外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省	外務省

I-0323

8 10

62	51	60	59	58	57	56	55
岡村 弘	加藤友次郎	山崎辰五郎	岡本興四郎	市村政一	村瀬内匠	久保田才次郎	倉田 稔
二八	三八	二九	二六	三〇	三三	三〇	二八
高橋	アリ	ナシ	高橋	アリ	アリ	アリ	ナシ
新潟縣	青森縣	埼玉縣	青森縣	新潟縣	愛知縣	靜岡縣	千葉縣
岡部範太郎	岡部範太郎	岡部範太郎	岡部範太郎	岡部範太郎	岡部範太郎	岡部範太郎	岡部範太郎
本心	本心	本心	本心	本心	本心	本心	本心
縣下訓導	縣下訓導	縣下訓導	縣下訓導	縣下訓導	縣下訓導	縣下訓導	縣下訓導
五八日	五八日	五八日	五八日	五八日	五八日	五八日	五八日
吉野備	吉野備	吉野備	吉野備	吉野備	吉野備	吉野備	吉野備

外務省

8 10

54	53	52	51	50	49	48	47
岩田 勝	半澤源吉	松本芳郎	高橋誠一	丸山太郎次	沢田義正	加藤義人	黒澤為夫
三一	三〇	二五	二五	二五	二四	三五	二九
ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	ナシ	アリ	アリ
和歌山縣	宮城縣	京都府	新潟縣	新潟縣	靜岡縣	福島縣	千葉縣
岡部範太郎	岡部範太郎	岡部範太郎	岡部範太郎	岡部範太郎	岡部範太郎	岡部範太郎	岡部範太郎
本心	本心	本心	本心	本心	本心	本心	本心
縣下訓導	縣下訓導	縣下訓導	縣下訓導	縣下訓導	縣下訓導	縣下訓導	縣下訓導
一一日	一一日	一一日	一一日	一一日	一一日	一一日	一一日
吉野備	吉野備	吉野備	吉野備	吉野備	吉野備	吉野備	吉野備

外務省

I-0323

文書課長

公 信 案

(甲 號 用 紙)

文書課發送一

昭和七年貳月貳日

發送済

淨書 (出)

正(原稿)

大村 (淨書)

主 任 亞細亞局長

了 任 亞細亞局長

2 年 2 月 1 日

機密 第 1 号 信

號 大正

昭和七年貳月貳日 附

附 屬 書

通

受信 新潟市真野女子学校

人名 鈴木

發信 外務省五組五局 第二課

件名 在日日本人学校放棄

在外日人學校教育關係雜件 在日日本人學校

工 1,5,0,2-18

公 信 案

外 務 省

案 昨 二 十 五 日 附 寄 信 以 文 部 省 長 務 課 長 由 照 會 一 二 七 号 國 際 法 日 本 力 學 校 教 育 委 員 會 第 一 号 本 年 一 月 十 九 日 大 陸 日 官 報 廣 告 掲 載 已 了 既 二 首 方 集

締 切 下 柳 文 信 長 為 案 昨 五 月 貳 日 三 男 一 九 九 七

二 名 計 三 〇 名 之 云

九 及 回 答 云 也

公
信
案
外
務
省

I-0323

寫送先

會文人文情條通歐亞細亞
計書事化報約商米

大臣
次官

電信課長

I 1.5.0.2-18)

昭和7 四七四六 略

本 盤谷 省

二月廿四日後着

亞二

芳澤外務大臣

矢田部公使

第二九號

電第四號ニ關シ

フ 學校長來任ハ豫テ申進ノ通り現校長來ル三月末離任歸朝ノ間ニ合ハ
スヲ要スル次第ナル處御銓衡ノ儀ハ如何相成リ居ルヤ至急御返事請

外務省

在官本人桐子校教育関係案件
盤谷 石川 桐子 校

I-0323

本係了文
初相字
山禱(此
多々集
川上先生
中者後
物とん

前書

先日の新聞紙よりして、シヤム居留民地五里を以て、中
の諸君を以て、獨裁ヤル、其の詳細
なる事項を知り、夜いですが、官報に発表なるは
何日の官報なるか、を以て、シヤム当該學校の、児童
數等を生ずる、其の状、報を傳、渡い、の、何、の、事、
す、か、至、急、に、通、知、下、い、ま、す、様、の、事、に、由、り、ま、す、

新設市沢無小學校

新設市沢無小學校

新設市沢無小學校

新潟市沼垂尋常高等小學校

公文書案

文書課 長 長原

文書課發送 昭和七年三月廿日 發送済

淨書 (校原稿) 正 (原稿)

(淨書)

(原議用紙甲)

主管 機務第三公文信

主任 (起草昭和)

昭和七年三月廿日附

附屬書

通

受信 高田九郎

發信 外務省

人名 五細重高第二課

件名 暹羅不日會不學校教員

人名 秋原太郎

件名 暹羅不日會不學校教員

件名 暹羅不日會不學校教員

件名 暹羅不日會不學校教員

件名 暹羅不日會不學校教員

件名 暹羅不日會不學校教員

件名 暹羅不日會不學校教員

件名 暹羅不日會不學校教員

件名 暹羅不日會不學校教員

件名 暹羅不日會不學校教員

件名 暹羅不日會不學校教員

件名 暹羅不日會不學校教員

件名 暹羅不日會不學校教員

(分類工1.5.2-15)

結果他之比し年數超過し方外ニ優考之方之

國日本ノ學校教員募集ノ件ニ関シ

結果他之比し年數超過し方外ニ優考之方之

公文書案

外務省

承知者及此及及回答也

公文書案

外務省

昭和七年三月二十日

神奈川県 高田中学校

秋原 太郎

第二課長殿

鎌倉中学校教員募集一件

而多繁中恐縮に修一其標記一件に因り自分今後の参考と
致し度候間推薦外と存する事由而差支なき限り
而明示賜り度勅上候尚而管轄下にて他に今回の如き
而採用御見込無三候也 之而御伺申上候

1

知

了

ハ

為
諸
受
付

昭和七年三月二日午前九、二五

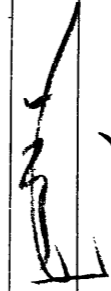
為
信
者

三井物産会社

(三越協)

會計課

用
件



盤
谷
日
本
人
會
社
金
六
〇
〇
円
外
務
省
へ

支
拂
方
依
頼
越
し
の
付
本
日
申
受
取

ラ
レ
タ
レ

其
後

日
合
社
有
限
公
司
理
金
孫
夫
へ
外
務
省
平
坊

三
井
物
産
有
限
公
司

外
務
省

I-0323

領公第一二一號

第二課

昭和八年十月十日

在盤谷

領事宮崎申



外務大臣 廣田 弘毅 殿

盤谷日本尋常小學校教員募集及派遣方依頼ノ件

當地日本人會ノ經營ニ係ル日本小學校ニ於テハ昭和九年四月一日ヨリ本科正教員一名ノ補充ヲ必要トシ(貴大臣宛昭和八年六月一日附拙信領公第五四號報告全號第十八項御參照)日本内地ヨリ招聘シ度キ希望ヲ以テ右ニ關シ本省ニ於テ何分ノ御助力ヲ仰ギ度旨依頼越シアリ

在暹羅日本公使館

I.50.2-18

Handwritten notes and stamps on the right side of the document, including a date stamp '8.11.9' and a circular seal.

就テハ別添記載ノ條件ヲ以テ官報ニ募集廣告掲載方相願フト共ニ應募者人選及其ノ派遣方可然御取計相煩度此段御依頼申進ズ
追テ別添廣告ニハ宿舍ノ記載ナキ處實ハ當地小學校教員ニハ從來宿舍ヲ給シ居ラザルニ付一ヶ月約三十五銖程度ノ下宿料ヲ自辨スベキコト及愈々派遣ノ際ハ本人ニ對シ旅費其他ノ關係上是非共大阪商船會社所屬船ニ依リ本年二月下旬ニ日本内地ヲ出發スル様御申聞ケ相煩度茲ニ本人赴任一切ノ旅費トシテ金二百二十圓也當地佛蘭西銀行小切手一葉添送致スニ付右ハ一時本省ニ御預リノ上本人出發ノ際御手交相成候様致度爲念右申添フ

在暹羅日本公使館

I-0323

官報廣告掲載要項（盤谷日本尋常小學校教員募集）

- 一、資性温厚、品行方正、身體强健ニシテ酒癖及言語ノ訛甚ダシカラザル者
- 二、學歷 府縣立師範學校卒業生ニシテ可成理科、圖書、手工ニ堪能ナル者
- 三、資格 小學校本科正教員ニシテ年令三十歳以下ノ獨身男子
- 四、待遇 (イ) 本俸金六十圓
(ロ) 手當遣貨四十銖（現在ノ爲替率ニテハ約金六十圓ナリ）
- 五、旅費 赴任一切ノ旅費トシテ金二百二十圓支給ス
- 六、契約期間 滿三ケ年トス、滿期後ハ雙方ノ合意ニ依リ更ニ三ケ年ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

在暹羅日本公使館

- 一、恩給 在外指定學校ナルヲ以テ恩給法ヲ適用セララル
- 二、著任期 昭和九年五月中

在暹羅日本公使館

暹羅區

第三課

昭和八年三月廿九日

8.12.20

領公第一四〇號

昭和八年十一月十七日

在 盤 谷

領 事 官 崎 申



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

抄
其
原
由
を

盤谷日本尋常小學校教員募集及派遣方ニ關スル件

本件ニ關シ客月十日附領公第一二一號拙信ヲ以テ御依頼申進置タルニ依リ既ニ御手配濟ノコトトハ存ゼラルル處來年三月末ヲ以テ辭意ヲ洩シ居リタル現任柏原代用教員ノ妻女ハ姪娘シ居リ而モ來年四月臨月ナルコト此ノ程ニ至リテ判明シ從テ同教員ハ新學年開始後二、三ヶ月ハ當地ニ止マルノ已ム無キニ至リ日本人會側ニ於

在暹羅日本公使館

テモ右ノ事情ヲ諒トシ新學年ノ第一學期間ハ右柏原教員ヲシテ留任セシムルコトニ決定シ當方ニ對シ可然取計方願出タリ依而往電第一〇五號申進ノ通前顯拙信添附官報廣告要項末段著任期「昭和九年三月中」トアルヲ「昭和九年八月中」ト訂正方御依頼申進シタル次第ナリ右御諒承ノ上可然御取計相成度

在暹羅日本公使館

電信寫

昭和9

略

盤石 本省 十二月廿七日後着

亞二

廣田外務大臣

矢田部公使

第一八八號

貴電第一二二號ニ關シ

日本人會長ノ補助金申請書郵送ス本年度所要額八百六十五「チカル」ノ中補助金四百「チカル」以外ハ日本人會ヲシテ支辨セシム昨年度所要經費二千百六十「チカル」ノ中年末手當及住宅費ノ一部三百六十「チカル」ハ日本人會支辨差引千八百「チカル」此ノ邦貨換算額二千八百八十圓ヲ補助所要額トス右計算ノ詳細ハ補助願ニ添付郵送ス

府縣立師範學校出身ノ本科正教員、品行方正、身體強健、發音正確酒癖ナキ者至急物色成ルヘク二月上旬着任スル様御配慮ヲ請フ多少ニテモ英語ノ素養アル者望マシ俸祿八級俸但シ在勤手當ヲ合セテ選貨百二十「チカル」支給時價換算邦貨約百九十圓）赴任旅費ハ三百二十圓渡切（家族携帶ノ場合ハ五百圓）入國稅一人百五「チカル」ハ日本人會負擔住宅ヲ給ス歸國旅費ハ日本人會負擔トス尙前記昨年度補助金額ハ本件計畫遂行上是非共必要ノ額ナルニ付捻出方特別ノ御配慮ヲ請フ萬一右削減セラルルカ如キコトアラハ教員募集條件ノ變更ヲ要スルニ至ルヘシ爲念尙赴任旅費ハ本年度補助金四百「チカル」ノ中ヨリ貴方ニ於テ御拂ヒ渡シヲ請フ

文書課長

文書課發 昭和十年一月十一日發送済

淨書

正校(原稿)

(淨書)

主 東亞局長

任 東亞局長

章福

昭和十年一月十一日起草

正二 普通令 第九三

號 昭和十年一月十一日附屬

日附 附屬

11 146

受 東京、京都、大阪、神奈川、静岡、愛知、青島、兵庫、友友、中事

信 重 光 次 郎

件 在外指定 盤谷日本人小學校訓導採用ニ係ル件

暹羅ニ對シ日本語教授ノ為メ盤谷日本人小學校訓

導一名増員ヲ申請スルニ在リテ在リ地天田部公使

公 信 案

外 務 省

人選方依頼越々此處貴寮ニ放テテ記條件
 之適合スル希望者有ラバ本月廿日迄ニ本人ノ
 履歴書、^{写真}戸籍謄本、人物考査書添付シ推薦書
 於此處此處ニ送ス、
 一、府立立師範學校出身ノ本科ニ教員ニシテ品行
 方正、身体強健、發音正確、酒癖ナキ者
 二、訶成英語ノ素養アル者、

公 信 案

外 務 省

東亞局 10.1.11 第二

I-0323

三待遇、八級俸俸、但シ立書初ヨリ与テ合セラシヤム
 賃百二十「ナカ」支給(時價換算郵賃約百九十圓)及住定ヲ済ス
 四、赴任、及赴任旅費、二月下旬、旅費三百三十圓、旅切(家
 旅携帶切金、五百圓)入国税及帰国旅費、^用本人
 合員抱ス。

公 信 案
 外 務 省

文書課長

文書課發送 昭和拾年貳月壹日 發送済

淨書 正校(原稿) 昭和十年 月 日 起草

法 長 任 主 東 亞 局 長
 二 普通令 第 四 四 〇 號 昭 和 拾 年 青 冊 書 日 附 附 屬

受 東 京、京 都、神 奈 川、
 信 瑞 島、愛 知、交 島
 人 若 方 氏 氏 氏
 名 信 發 重 光 氏 氏

件 在 存 指 定 盤 谷 日 本 小 学 校 訓 導 採 用 採 取 件
 名 件 録 記

本件之旨、本月十日附本局より推考の方及以て其
 置中免 申出 此配慮中トイ存其外 已取 玉急

公 信 案
 外 務 省

東亞局
 10.1.31
 第二課

31 100

I-0323

東
...
課長

31 07

10.21

電 信 案	電送第 1226 號 昭和十年一月三十一日 時一分發	宛 在盤谷 矢田部公使	主 任 廣田大臣
		件 採用の肉るん件	名件録記
客手 貴電一八八号に因シ	第一	志願者数名アリ貴方にて詮衡セラレ ナラハ	昭和十年一月廿一日起草
原書送付ス、当方にて決定支、ナクバ詮衡ノ上	外務省		

電信課長

公
信
案

外
務
省

要し居り以當之付何系ノ儀は田示相
照会P進ス、

I-0323

寫送先

秘書官 會文 人調 文情 條通 米歐 洲亞 東亞

大臣 次官

電信課長

I.S.O.2-18

昭和10 一六八七 2. 2 略 盤谷 本省 二月一日前發 亞二

廣田外務大臣 矢田部公使

第三六號

貴電第二一號ニ關シ(盤谷小學校訓導採用方ノ件)

往電第一八八號ノ條件ニ依リ貴方ニテ御詮衡ノ上赴任セシメラレタ

シ

外務省

電信案

外務省

赴任セシムルハニ付 何分ハ由電 了ルシ

(原議用紙乙)

愛 知 縣

東亞局
教第一二八號

昭和十年二月五日

第二課

昭和拾年貳月 六日

愛知縣知事 篠原英太

外務次官 重光葵 殿

在外指定盤谷日本人小學校訓導採用ニ關スル件

昭和十年一月十一日附亞二普通令第九三號及ヒ昭和十年一月三十一日附
亞二普通令第四四〇號御照會ノ標記ノ件御申越シノ條件ニ適合スヘキ希
望者無之候條可然御了承相煩度此段及回報候也

東亞局

第二課

昭和拾年貳月

七日

東亞局
10.2.7
第二課

十學第二〇號

昭和十年二月六日

神奈川縣知事

外務次官 殿

在外指定盤谷日本人小學校訓導採用ニ關スル件

昭和十年一月三十一日附亞二普通令第四四〇號ヲ以テ御照會ノ標記
ノ件推薦致スベキ適當ノ者無之右及回答候也

神奈川縣廳

電信課長

大臣

次官

東亞 歐亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

I.S.O.2-18

昭和10

二一一一

2.12年

廣島 本省

八日後發 二月八日後着

亞

重光外務次官

廣島縣知事

一月十一日附盤谷日本人小學校訓導採用ノ件希望者ナシ

手紙
昭和十一年二月八日
廣島縣知事
重光外務次官
廣島縣知事

外務省

東亞局

十學第四二號

昭和十年二月十二日

京都府知事 鈴木信太

外務次官 重光 奏 殿

在外指定盤谷日本人小學校訓導採用ニ關スル件

一月三十一日亞二普通合第四四〇號ヲ以テ標記ノ件御來照ノ處推

薦スベキ適當ノ者無之候條御了知相成度

右回答候也

第一課

京都府

昭和拾年貳月拾貳日

東亞局 10.2.13 第二課



I-0323



東京府

亥學第一〇九號

第二課

昭和十年二月十九日

東京府知事

昭和十年二月十九日

別紙
第一課

外務次官殿

在外指定楳谷日本人小學校訓導採用ノ件推薦

本月十一日亞二普通令第九三號總務會ニ係ル標記ノ件ニシテ左記ノ
旨ヲ適止ト認メ關係書類ヲ具シ此致推薦候也

追テ右ノ外別紙履歷ノ東京市第四吾端尋常小學校代用教員土橋名
吾七就任希望ニ付比段併セ申進候尙後藤善吾ノ戸籍謄本ハ目卜致
送中ニ付追テ提出セシムヘク談

記



東京府

日本標準規格 B5 (182x257mm)

東京府公立小學校訓導

(東京府東京市大森第四尋常小學校訓導)

後藤善吾

東京府

日本標準規格 B5 (182x257mm)

I-0323

文書課長

文書課發送 昭和拾年貳月廿八日發送済

主 管 東亞局長 了

主 任 東島繁三郎

淨書

正校(原稿)

(淨書)

昭和十年二月廿九日起草

第二普通部 第八三一號

昭和拾年貳月廿六日

日附 附屬

受 信 人 名 東京 大阪 長崎 青島 奉天

發 信 人 名 重光 徳次

名 件

名 件 録 記

盤谷日本人小学校訓導採用之案ニ付

本件ノ案ニ對シテ推考書致シタルニ付、先般ノ者ハ詮議

ノ結果、先般ノ詮議ノ旨ニ對シ、先般ノ者ハ本人ノモリ

公 信 案

外 務 省

先般ノ案ニ對シ、先般ノ者ハ本人ノモリ

(神戶) 案ニ對シ、先般ノ者ハ本人ノモリ

追テ先般ノ案ニ對シ、先般ノ者ハ本人ノモリ

ニ對シ、先般ノ案ニ對シ、先般ノ者ハ本人ノモリ

候補者トシテ推考書致シタルニ付、先般ノ者ハ本人ノモリ

方、保留ノ旨ニ對シ、先般ノ者ハ本人ノモリ

報告書等此中ノ案ニ付、先般ノ者ハ本人ノモリ

記

公 信 案

外 務 省

26 106

東亞局 10.2.26 第二課

I-0323

公 信 案

外 務 省

島原界 金 藤 恒 義
 大 陽 寺 金 本 敏 彦
 東 島 寺 土 橋 有 貴

公 信 案

外 務 省

結 果
 (一) 本 簿 一 冊 原 之 三 卷 乃 領 事 館 之 決 定 一 冊 (四)
 (二) 手 書 一 本 係 一 八 年 之
 (三) 宿 屋 又 一 宿 舍 押 文 付
 (四) 島 原 上 島 勤 儀 切 合 切 切 併 文 付 恩 給 冊 係 一 内 地 通 案
 (五) 中 之 島 家 族 一 冊 任 務 冊 一 冊 又 交 料 二 冊 (仲 方 志 七 卷)
 支 付
 (六) 本 年 三 月 五 日 三 卷 係 乃 女 子 矣 ト ス

I-0323

電信課長

大臣

次官

東亞 米洲 通商 條約 情報 文化 調查 人事 文書 會計 會社 秘書官

寫送先

昭和10 7.20 一一五〇八 略 盤谷 本省 七月十九日後着 十九日後發 亞二

廣田外務大臣 矢田部公使

第一八〇號

亞二普通第一二二九號貴信ニ關シ

一、現員平吉、後藤、金井三訓導

一、現給年額（本俸ヲ含メタル支給金額）

平吉二、〇四〇「パイツ」（内本俸額一、一四〇圓以下同シ）

後藤一、四四〇「パイツ」（九〇〇圓）

金井一、二〇〇「パイツ」（七八〇圓）

尙當地ニ於テハ收入ノ安定ヲ圖ル爲本俸ヲ含メタル支給金額ヲ前記

外務省

ノ通り暹貨ニテ支給シ居レリ
一、恩給法納金改正納率適用者ナシ

外務省

給件
平吉、後藤、金井、三訓導
現給年額、現員平吉、後藤、金井三訓導
現給年額、現員平吉、後藤、金井三訓導

I-0323

寫送先

會文人事情條通歐亞細亞
計書事化報約商米

次大臣
官

電信課長

(分類I.5.0.2-1)

11.22

公 信 案

昭和九年七月十五日東京府ヨリ高命令セル
金井純雄ノ任用報告、
昭和十年二月十八日同 上
後藤善吾ノ任用報告、

外 務 省

高橋
石

昭和8

二二六二六

略

盤谷

本省

十一月十七日後發

亞

廣田外務大臣

宮崎代理公使

第一〇五號

客月十日附領公第一二一號ニ關シ

學校側ノ都合ニ依リ官報公告要項中ノ著任期ヲ昭和九年八月中ト訂

正 方 日 本 人 會 ヨ リ 願 出 ア リ 依 テ 可 然 御 取 計 ア リ タ シ 委 細 公 信

外 務 省

I-0323

在外指定盤谷日本尋常小学校訓
 記
 昭和九年一月 外務省
 有里細西与才二課長其書提出也
 元ハシ
 公、本生名「履歴書、戸籍謄本、身
 体検査書、写真追加」期日迄ニ為
 公 信 案

九一四官報

官報廣告掲載案

普通密第	主 任	昭 和 年 月	日 附 附 屬
號	昭 和 年 月	日 附 附 屬	昭 和 年 月 日 起 草
名 件	名 人 信 受	名 件 録 記	名 人 信 發
◎ 在外邦人学校教員募集	官報廣告掲載案		
左記條件之依り資性限有品行方正			
身体强健ナル在外邦人学校教員ヲ求			
昭 和 九 年 一 月 十 日			

外 務 省

I-0323

選手一名

条件

学歴

併縣立師範学校卒業生

エニテ成ルヘク理科、国画、手

エニテ成ルヘク

右ヲ證明スヘキ材料アリテ提出

アリタル

公
信
案

外
務
省

資格

本科正社員ニシテ年齢三十歳

以下、独身男子タルニト

待遇

(一) 本俸六十円

(二) 手当選賃四十円 (現在、為

者率ニテハ約金六十円見込)

(三) 宿舍ヲ給セス (下宿料トシテ

一ヶ月約三十五円程度ヲ自辨)

公
信
案

外
務
省

公
信
案

外
務
省

因
文
給
二

著
任
期
昭
和
九
年
八
月
中

取
書
提
出
期
限
本
年
六
月
末
日

備
考
赴
任
際
大
阪
商
船
會
社

所
屬
船
三
條
航
航
便
アリ

ス
ル
事
ト
ス
一
下

契
約
期
了
満
三
ヶ
年
未
但
之
満
期
迄

雙
方
合
意
之
依
り
更
三
ヶ

年
之
期
了
ヲ
延
長
ス
ト
ナ
ル

恩
給
在
外
指
定
考
校
十
ヶ
以
上
ノ
恩
給
法

ヲ
適
用
セ
ラ
ル

旅
費
赴
任
一
切
ノ
費
用
ト
シ
テ
金
二
百
二
拾

公
信
案

外
務
省

I-0323

藤田 弘毅

領事館第二七號

第三三三

昭和九年二月廿二日

在盤谷

領事 官崎 申 郎

外務大臣 廣田 弘毅 殿

盤谷日本尋常小學校教員應募者ニ關スル件

當地日本尋常小學校教員ノ募集方ニ關シテハ客年十月十日附領公
第一二一號拙信ヲ以テ本省へ依頼濟ナル處今般別添應募者遠藤正
美ナル者ヨリ直接當館ニ對シ當地日本小學校教員ニ採用方願出來
リタルニ付茲ニ該願書類一括轉送申進ス可然御取計相煩度シ

在盤谷日本領事館

昭和九年參月廿貳日接獲

別紙添附



I-0323

推薦状

兵庫縣有馬郡道場高野小學校

訓導 遠藤正美

1934

右者シヤム居留民團立バンコク日本人小學校職員ヲ志望ニ付
最適ト認メ此ノ般推薦申上候

一心身共ニ温健中正ニシテ篤學ノ者ナリ

一家庭ニ後顧ノ憂ナシ

一外國語ハ英佛獨語ヲ理解セルモト認ム

以上ノ通りニ付御採擇如何ヲ至急御回答被下度
御依頼申上候

昭和九年一月二十三日

兵庫縣有馬郡道場高野小學校長

辻井俊平



シヤムバンコク日本領事殿

心算
一才
一才
一才

重岡重高

第三課

第二號

昭和九年四月七日

兵庫縣有馬郡道場村小學校長

辻井俊平



外務省亞細亞局在外指定小學校係殿

一、在外指定小學校シムロ岸人會立バンコク小學校教員推薦ニ関スル
件

當該職員 遠藤正美ノバンコク小學校教員志望ニ関スル推薦狀並ニ履歷書、身檢査表ヲ一月二十日付テシム總領事宛ニ送付スル處、シムロ岸人會長、大谷清次ヨリ二月十六日付テシム總領事宛ニ送付スル旨承諾アリ、同時ニ履歷書推薦狀、身檢査表ヲ一稿ニテ外務省へ總領事ヲ經由シテ送付セル旨ノ返書アリ、其内容ハ、十二月十日總領事

兵庫縣

有馬郡道場高等小學校

事シハテシムロ岸人會立小學校教員ノ派遣方ヲ依頼セルモ、現任缺員ナルニヨリ貴書ヲ承諾トシテヨリ、履歷書推薦狀、身檢査表、檢閲ノ上、

大至急、海外出向ノ辞令ヲ交付相成度御願申上候。

敬具

藤



I-0323

文書課長

文書課發送

主 管 亞細亞局長

昭和九年四月九日發送済

昭和九年四月十八日

浄書

正校(原稿)

(浄書)

普通通各第一四二八號

昭和九年四月十八日 附 附屬

東京市 学務部長 教務部長

外務省通商部

名件録記

監査官

名人信發

在外邦人之学校及員募集之件

各省所及在外指定学校監査員

尋常小学校之校務条件之依り

公 信 案

外 務 省

別添
官報集
一部作
外之下

訓導一名採用此度紙より因り
崎領事より詮議方稟請紙ニテ
二年より貴官下(教員中)右条件ニ適
應せん者選定以上推薦方相度
此紙は依り申達ス

記

(昭和九年一月十日官報掲載)

公 信 案

外 務 省

18 66

9.4.20

I-0323

廣告

在外邦人學校教員募集

左記條件に於て成績優秀品性行實身體強健ナル
在外邦人學校教員募集者ハ國籍實戸籍
原本ニ於て在籍者トシテ其ノ期日マテニ當省亞
細亞局長ニ於て提出スルベシ
昭和九年一月

學 府立師範學校卒業生ニシテ成ルハ
夕理科圖書手工ニ堪能ナル者ニ
限リ

資格 本科正教員ニシテ年齢三十歳以下ノ
單身男子タルコト

待遇 (イ) 本俸六十圓
(ロ) 手当過賃四十圓現在ノ爲替率ニテハ約金六
十圓見當

(ハ) 宿舍ヲ給セス(下宿料トシテ一箇月約三十五
圓ヲ自辨スルヲ要ス)

契約期間 滿三箇年但シ滿期後ハ雙方ノ合意ニ
依リ更ニ三箇年期間ヲ延長スルコト
ヲ得

恩給 在外指定學校ナルヲ以テ恩給法ヲ適
用セラル

旅費 赴任一切ノ費用トシテ金二百二十圓
ヲ支給ス

著任期 昭和九年八月申

備註 本年九月
赴任ノ際ハ大阪商船會社所屬船ニ依
ル便アリ



(赤 梓 紙)

外 務 省

I-0323

THE BANGKOK JAPANESE PRIMARY SCHOOL
SIPHYA ROAD, BANGKOK, SIAM.

應募せる旨報じ來り彼の在外子弟教育に對する熱意を抱負を述べせる一書を添へて此の絶好の機會に是非採用の榮を勝ち得たいとの希望を訴へ來り候に就ては學校の教育事務上の直接の責任者たる小生として此際一筆を物として同人を推薦し貴官の詮考上の一参考に供し度く存じ奉候
抑々樋口澄雄氏は小生が渡暹前東京市櫻田尋常小學校在職中教鞭を共にせる訓導にして二ヶ年の間公私共に肝胆相照して生活せるを以て彼の教育者としての人格・識見・實力等はよく熟知せし居り候即ち彼は嘗て帝國教育會會長として名聲高かりし故澤柳政太郎博士や縣を因りして長野に生れ教育者たりんやの發心より

昭和 年 月 日

盤谷日本尋常小學校用紙

THE BANGKOK JAPANESE PRIMARY SCHOOL
SIPHYA ROAD, BANGKOK, SIAM.

謹啓 未だ一面識も無之身不束を顧みず一等啓上仕候彼誠に僭越恐縮に存奉候
陳者此の度小生の勤務經營する盤谷日本尋常小學校に於て訓導一名日本内地より招聘せし度に付その人選方を豫めて貴官に御依頼申置き候處時局多端の折柄種々御配慮の事と察し深謝奉候
備て官報にも窺ひ候へば今回は募集廣告後相當に長き時自有之候故出願者も多数に達し居ること存せられその御詮考に就ては殊の外なる御肯折の事と遙察仕候
實は小生の入魂の親友にて目下東京市櫻田尋常小學校に在職中の樋口澄雄氏もこの機會に逸せず

昭和 年 月 日
本人 樋口 澄雄
小生 樋口 澄雄
御 啓
盤谷日本尋常小學校用紙

於て一倍の熱と力とを持ちよく児童の魂を抱擁善道する
る點、眞に教育者中の教育者たりと小生は敬愛せ
次第に御座候。而して彼と小生は児童教育の出發点
たる児童觀に於て見解を同じうし、その目的方法に
於て教育觀及び教育方針を同じうせざるを以て教授
訓練、養護の上に常に共鳴と感激と反省と研究を
共にしつゝ互に眞の教育者たるの志を勵まし合ひ時來
たらば共兩人共力として一校を經營し眞の國民教育の
実績を擧げて見たいと語りしことも屢々有之候
されば小生としては今年度自身の經營する學校に欠
員を生じたるに際し、遂に早く同君の事を思ひ浮べ、平
和の勇者として海外に發展活躍する暹羅邦人の子弟
教育の重大なる點より頻りに同君を得たしと囑望致し

昭和 年 月 日

盤谷日本尋常小學校用紙

東京に出で、青山師範の二期に入り卒業して同管
内に奉職し数年の経験を積みたる後、更に勤めた
る研究心を抑へかねて同師範の専攻科に入り一意専
心教育の原理と實際とを研究し、卒業するに當りて
櫻田校長草野先生の所望により同校に赴任し爾來
帝都教育に致々として健闘致し居る者に御座候
その間に於ける彼の教育上の識見並にその実績等は敢
て小生の説明を要すべくもあらず、東京市小學校訓導
研究發表會に於て作業教育としての手工科の研究を
物して好評を博したる等の事實に徴して明白なること
に御座候。從つてその人格も學究的に洗鍊されて底
力を有し且つ情意的にも實踐修養を怠らざりし
を以て深き人間味を拂ひ具へ特に児童愛の精神に

昭和 年 月 日

盤谷日本尋常小學校用紙

於て不足は無之ものと信じて居り候間念のため書き添へ
申し候敬具

實は貴官に人選方の御依頼を申上りる前に小生より
直接本人へ交渉して見たしとまで心動き候へども、一面同
君の教育者としての将来を慮り、今教育の中心地たる東
京より、とさらに同君を誘ひ出すとは心ならずも業のやうに
も考へられ候故遠慮致し居り候次第に御座候。然
るに今回端なくも同君より在外子弟教育に對する強
熱意と深き抱負とを披瀝して一身を斯道に捧げ度
いと熱烈なる希望を申越したるに遭遇し小生としては
棚より牡丹餅の譬はおろか、實に百万の味方を得たるか、
心強さを感し候。仍て茲に僭越を顧みず一書を呈上
して同君を推薦し切にその御採用方を希望申上ぐ
る次第に御座候。尚同君若しは表に募集條件として
小生より希望せし「國畫、手工、理科に堪能なる者」の點に

昭和九年六月八日

昭和 年 月 日

暹羅國盤谷日本尋常小學校長

盤谷日本尋常小學校用紙

平良仲次郎

外務省亞細亞局
第三課長 田尻愛義殿

追伸 若し又不幸にして小生に於て暹羅國日本人會との勤
務契約満了のため餘儀なく職を辞さねばならぬ日か、若し候
事有之候は、是更にと同君と小生の後継者として最近日に日本校
しみを増して暹羅國民の心博と教育の方面より一層開拓の事を進め
以て在外子弟教育の多角的意義と本心を發揮せんと念に御座候

昭和 年 月 日

盤谷日本尋常小學校用紙

外 1,5,0,2-18

公文書案	外務省	主 管 東亞局長	主 任 東亞局長	普通 第 半公債 號	昭 和 九 年 七 月 五 日 附 附 屬	昭 和 九 年 七 月 三 日 起 草	正 校 (原 稿)	(淨 書)	文 書 課 發 送	昭 和 九 年 七 月 五 日 發 送 済	文 書 課 長
		受 信 人 名	發 信 人 名	記 録 件 名	件 名	件 名	件 名	件 名	件 名	件 名	件 名
		別 表	外務省東亞局第二課	盤谷小学校	(盤谷小学校教員募集ニ関スル件)	貴殿呈表ニ盤谷小学校教員募集ニ應ヤラ	願書所提出相成タル處其後詮衡ノ結				

別紙

東亞局
9.7.1
第二課

5

I-0323

果^レ旨遺憾^ニ今回^ハ他^ニ決定^シタル^ニ付^テ右^ニ
御諒知^相成^度御提出^ノ書類^ハ一括^及
返送^{タル}ニ付^テ御查收^相成^度候

(附^ノ葉^ニ依^リ各^別ニ添^附送^付ス^ト)

公
信
案

外
務
省

I-0323

寫送先

調查洲計書事化報約通商
亞細亞
歐米

11.5.0.2-18

電信課長

大臣
次官

昭和9 一三七四九略
盤谷 本省
十日後發
七月十日後着
亞二

廣田外務大臣

第九二號

矢田部公使

客年十月十日附領公第一二一號拙信ニ關シ（盤谷日本尋常小學校教員派遣ニ關スル件）
補充教員既ニ御人選濟ナリヤ否ヤ御回電ヲ請フ

外務省

（別表）

氏名

住所

淺野且任

福島市大字福島字戸内一一番地

稻葉秀雄

埼玉縣南埼玉郡大相模村 大塚又四郎

遠藤正美

兵庫縣有馬郡道場村十六番地

水野透之

廣島縣曲豆田郡上北方村二三九四番地

山下強三

岡山縣上房郡上有漢村二二六七番地

公信案

外務省

以上

矢田部公使

東亞局

第二課

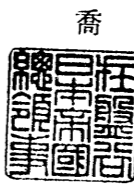
昭和七年四月八日 接受

領第三二號

昭和十一年三月十八日

在 盤 谷

總領事 森



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

小學校訓導採用派遣方ノ件

當地日本小學校訓導兼校長平良伸次郎ハ昭和七年三ヶ年ノ契約ニテ
來任シ右期限經過後更ニ更新セル任期モ愈々來ル六月末ヲ以テ
ト相成ルヘキニ付之カ後任者ヲ採用方當地日本人會長小川藏太ヨリ
願出ノ次第アリタリ就テハ大体左記條件ニヨリ目下歸朝中ノ矢田部
公使トモ御協議適當ノ者御選定ノ上派遣方御取計ヒ相成度ク此段御

在盤谷日本領事館

依頼申進ス

追テ赴任旅費ハ四月ニ入りテ當方ヨリ送付致スヘキニ付本省ニ於
テ御交付ノ上領收證ヲ徵シ當方へ御送付相煩シ度シ

記

一、小學校本科正教員ニシテ現在七級俸又ハ八級俸ノ者（ナルヘク八
級俸ノモノヲ希望ス）

二、年齢ハ三十歳以上四十歳以下ナルコト

三、英語ノ知識ヲ相當有シ且體育ニ熱心ナルモノ

四、家族同伴者ニシテ素行優良（酒癖ナキモノ）身體強健持ニ熱帶勤

務ニ堪ヘ得ルモノ

五、任期ハ三年ヲ一期トスルモ雙方ノ合意ニヨリ更ニ延長スルコトア

在盤谷日本領事館

ルヘシ

六、五月下旬本邦出帆ノ大阪商船はたひや丸ニテ赴任ノコト
七、旅費トシテハ六百五拾圓也渡切（支度料等一切ヲ含ム）
八、當地ニ於ケル待遇

イ、盤谷日本小學校（創導第）校長ニ任命ノ豫定

ロ、宿舍ヲ給ス

ハ、當地到着後在勤俸ヲ給ス

在勤俸ハ本俸ヲ加ヘタル全額遣貨百六拾銖也ヲ支給シ漸次増給
ヲ行フ（現在相場ハ遣貨一銖ハ邦貨約一圓六十錢ニ當ル）

ニ、契約期間滿了ノ上歸國スルトキハ大體赴任旅費ニ相當スル歸
國旅費ヲ支給ス

在盤谷日本領事館

ホ、恩給ハ内地ト通算セラレ當地在勤中ハ其ノ三分ノ二月ヲ加算
セラル

在盤谷日本領事館

I-0323

035

履歷書

本籍 茨城縣西茨城郡北那珂村大字富谷二六六番地
現住所 茨城縣新治郡玉川村大字川中子三番番屋敷

酒井利雄

明治三十三年九月十日生

學業

- 一 天正年正月 茨城縣師範學校本科第一部卒業
- 一 天正年正月 茨城縣立農業補習學校教員養成所卒業
- 一 昭和二年正月 茨城縣師範學校專攻科(地歴英語部)卒業
- 一 昭和三年七月 師範中學校高女校教員檢定(簿籍經濟科)試驗合格
- 一 昭和八年正月 實業教員檢定(商事要項科)試驗合格
- 一 昭和九年正月 實業教員檢定(簿籍經濟科)試驗合格
- 一 昭和九年正月 茨城縣新治郡土浦尋常高等小學校訓導

一 自昭和九年三月至十年三月 茨城縣新治郡藤澤尋常高等小學校訓導
 一 昭和十年三月 茨城縣新治郡玉川尋常高等小學校校長拜命
 八級俸給與

賞罰

一 特ニ記スルキコト無シ

右ノ通りニ候也

昭和十年七月十一日

右 酒井利雄



I-0323

公 信 案

外 務 省

一、小学校中種正教員ニシテ現在七歳以上八歳以下ノ者
 (其ノハ以外ノ者ヲ希望ス)

二、年令三十才以上四十才以下ノ者、
 三、英法ノ智識ヲ相当有シ且教育ノ熱心ナル者
 四、家族ノ伴者ニテ素以優良(匪癪ナキ者)身体

發信用執務用

主信	
附甲	
乙	
丙	
丁	
屬	
備考	

文書課長

文書課發送 昭和拾壹年四月廿日 發送済

主 東亞局長
 任 主 東亞局長

普通 第四五八號 昭和拾壹年四月廿日 附 附屬

昭 和 十 一 年 四 月 二 十 日 起 草

淨書 (梅) 正校 (原稿) (淨書)

受 信 人 名 東 京 森 島 本

發 信 人 名 堀 口 以 兵 衛

記 録 名 件 名 盤 谷 日 本 小 学 校 訓 導 採 用 之 同 意 件

本件、閣下在記案件ニテ人選方之盤谷森島氏
 事ニテ稟請アリ且之者要小ニ於テ適當ナル志願

公 信 案

外 務 省

20 147

逸臣ニシテ熱帯性勤勞ニ堪ヘ得ルモノ

五任期ニ三年ヲ一期トスルニモ雙方ノ合意ニテ之ニ任長

スルコトトス

六、五月下旬東京郵出帆ノ大坂商船ヲたびや丸ニテ赴任ス

七、旅費トシテ六百五十円渡切(支度料)トス

八、現地ニ於ケル待遇

(一) 盤谷日本小学校訓導主任校長ニ任命ノ際

公 信 案

外 務 省

四、宿舎ヲ設ス

(一) 現地ニ到着後立寄宿舎ヲ設ス、

在勤俸ノ本俸ヲ加ヘ先全額遣貨百六十圓ヲ

支給シ漸次増給ヲ行フ(現在相場ニ遣貨一圓ニ郵

賃約一月分トスルニ当ル)

(二) 契約期ヲ満了シ上為妻スルトキニ大体赴任旅費

ニ相当スル切手旅費ヲ設ス

公 信 案

外 務 省

I-0323

J1.50.2-18

昭和十一年六月十五日	盤谷日本尋常小學校訓導兼校長	願ニ依リ退職ヲ命ス	六級俸	本俸ヲ加ヘ 暹貨百七十銖	小學校本科正教員及中等學校体操科中体操教員	ナシ	平良仲次郎
發給月日	舊職名	發令要旨	發令時ノ本俸	加俸	資格	官位	

盤谷日本尋常小學校ニ於テハ校長及訓導ニ左ノ通り異動ヲ生シタルニ付此段報告申進ス

東亞局 領第八十六號 昭和十一年七月三十日 在盤谷 總領事 森 喬

外務大臣 有田八郎 殿

盤谷日本尋常小學校教員移動報告ノ件

昭和十一年八月十日 在盤谷 總領事 森 喬

昭和十一年八月十日 在盤谷 總領事 森 喬

在盤谷日本總領事館

公 信 案

外 務 省

（お）恩給ハ地卜通兼セシ
（現地在第中）
 共ニ三分ノ二ヲ加算
 セラレ

I-0323

發信用執務用		
主信	/	
附屬	甲	
	乙	
	丙	
	丁	
備考		

文書課長 文書課發送昭和拾貳年六月拾五日發送済

主 管 東 主 住 三 課 長

受 信 在 盤 為

件 名 盤 石 小 学 校 教 員 俸 給 工 務 規 定 一 件

件 目 同 様 訓 導 恩 給 調 査 止 必 要 有 之

正 七 三 七 〇 切 取 〇 〇 規 定 〇 〇 添 付 〇 〇 〇 〇

公 信 案 外 務 省

昭 和 十 二 年 六 月 十 日 起 草

昭 和 十 二 年 六 月 拾 四 日 附 附 屬

淨 書 正 校 (原 稿)

名 件 録 記 名 人 信 發

森 浩 三 郎

廣 田 大 五

14 39

昭 和 十 一 年 六 月 十 五 日	東 京 府 公 立 小 学 校 訓 導	盤 谷 日 本 尋 常 小 学 校 訓 導 兼 校 長 〇 命	十 級 俸 本 俸 〇 加 小 学 校 本 員	ナ シ	渡 邊 文 人
給 ス	八 級 俸 ヲ	ス 校 長 ヲ 命	五 十 銖		

在 盤 谷 日 本 總 領 事 館

I-0323

東亞局

第二課

昭和三年七月廿八日接受

領普通公第八九號

昭和十二年七月八日

在 盤 谷

總領事

森

喬

外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

盤谷小學校教員支給規定ノ件

本件ニ關シ六月十四日附亞二普通第一二號貴信ノ趣敬承仍テ左記ノ
通別紙ヲ以テ回報申進ス

在暹羅日本公使館

札

2. 附 I (1. 5. 0. 2-1)

記

- 一、甲號大正十五年六月設立當時制冠ノモノ
- 二、乙號昭和六年六月一部改正ノモノ
- 三、丙號昭和八年十一月改正ノモノ

以上

在暹羅日本公使館

I-0323

甲字

つしえたて

第一條 盤谷日本尋常小學校教員俸給規則（大正十五年六月一日）
 教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ム

級	上	下	本科正教員	専科正教員	准教員
一級	一八〇	一六〇	一一〇	一一〇	六〇
二級	一四〇	一三〇	九〇	九〇	五〇
三級	一二〇	一一〇	八〇	七五	四〇
四級	一〇〇	九〇	七〇	六五	三〇
五級	八五	八〇	六〇	五五	三〇
六級	七五	七〇	五〇	四五	三〇
七級	六五	六〇	四〇	三五	三〇

在暹羅日本公使館

代用教員ノ月俸額ハ准教員ニ準ス

級	上	下
八級	五五	五〇
九級	四五	四〇

第二條 一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アルモノニハ本科正教員ニ在リテハ二百四十圓マテ専科正教員ニ在リテハ百六十圓マテ漸次増給スルコトヲ得

第三條 教員ノ俸給ハ在職一ケ年以上勤續スルニアラサレハ昇級セズ但シ勤務ノ成績特ニ顯著ナルモノハ此限リニアラス

第四條 教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトヲ得ス

第五條 休職者ハ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス但シ明治三十八年文部省令第二十號在外指定學校ニ關スル規 第十條第三號又ハ第四號ニ依リ休職ヲ命セラレタル者及同第十一條ニ依ル休職者ニハ之ヲ給セス

在暹羅日本公使館

第六條 特別ノ事情ニ由リ前四條ノ規定ニ依リ難キ場合ニハ領事ニ於テ特別ノ處分ヲナスコトヲ得

第七條 教員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給スヘシ

一、懲戒ニ依リ免職ニ處セラレタルトキ

二、免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失效ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第八條 教員死亡シタルトキハ其在職中ト休職中トニ拘ラズ在職最終ノ俸給月額三ヶ月分ヲ其遺族ニ給スヘシ

但シ遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ

教員退職休職若ハ死亡シタルトキハ其當月分月俸ノ全額ヲ支給スヘシ

第九條 俸給ハ新任、復職、増俸、減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ支給ス

第十條 疾病ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲコユル者及私事ノ故障ニ由リ執務セサルコト六十日ヲコユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但シ

在暹羅日本公使館

公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ特旨賜暇休養スルモノハ此限リニアラス

第十一條 俸給ハ毎月二十一日之ヲ支給スヘシ

但シ前日休日ナルトキハ前日ニ繰上クヘシ

第十二條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位ノ端數ヲ生スルトキハ四捨五入錢位ニ進ムヘシ

第十三條 俸給ハ支給當日ノ平均相場ニ依リ銖銀ヲ支給スヘシ

在暹羅日本公使館

在暹羅日本公使館

九級 下上	八級 下上		
		四四 〇五	五五 〇五

乙号
→
ふしむ打のり

在暹羅日本公使館

七級 下上	六級 下上	五級 下上	四級 下上	三級 下上	二級 下上	一級 下上	職名 本科正教員	第一條 中ノ表ヲ左ノ如ク改ム	盤谷日本尋常小學校教員俸給支給規則（昭和六年六月七日）
六六 〇五	七七 〇五	八八 〇五	九九 〇五	一一 〇五	一二 五五	一四 五五	專科正教員		
							一一 〇五		
							准教員		
							三三 〇三		
							四五 五〇		
							五五 五〇		

I-0323

両号

盤谷日本尋常小學校教員俸給支給規則（昭和八年十一月一日）

第一條	教員ノ月俸額ハ左表ニ據リ之ヲム	
職名	本科正教員	専科正教員
一級	一六五、	一一五、
二級	一四五、	一〇五、
三級	一三五、	九五、
四級	一二五、	八五、
五級	一一五、	七五、
六級	一〇五、	六五、
七級	九五、	五五、
八級	八五、	五〇、
九級	七五、	四五、
十級	六五、	四〇、
十一級	五五、	三五、
十二級	五〇、	

在暹羅日本公使館

第十三級 四五、

第十四級 四〇、

代表教員ノ月俸ハ準教員ニ準ス

第二條 教員ノ月俸ハ在職一ケ年以上勤続スルニアラサレハ昇給セ、但シ勤務ノ成績特ニ顯著ナル者ハ此ノ限ニアラス

第三條 休職者ニハ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ支給ス、但シ休職ノ期間ハ在外指定學校ノ指定期間ニ關スル規程第十三條ニ據ル

第四條 教員ハ左ノ各號ノ一ニ該当スル時ハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ支給スヘシ

一、懲戒ニヨリ免職ニ處セラレタルトキ

二、免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失効ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第五條 教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラズ、在職最終ノ本俸月額ノ三ケ月分ヲ其ノ遺族ニ給スヘシ、但シ遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ、教員退職休職若ハ死亡シタル時ハ其ノ當月分月俸ノ全額ヲ支拂フヘシ

在暹羅日本公使館

第六條 俸給ハ新任、復職、増俸、減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ支給ス

第七條 疾病ノ爲執務セサルコト九十日ヲ超ユル者^及私事ノ故障ニ因リ執務セサルコト六十日ヲ超ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス 但シ公務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ特旨賜暇休養スルモノハ此ノ限りニアラス

第八條 俸給ハ毎月廿一日之ヲ支給スヘシ 但シ當日休日ナル時ハ前日ニ繰上クヘシ

第九條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位端數ヲ三スルトキハ四捨五入錢位ニ進ムヘシ

第十條 本俸ハ支給當日ノ公表爲替率ニ依リ違貨ヲ以テ支給ス

第十一條 本規則ニ定メナキ事項ハ小學校令施行規則ニ據ル

在暹羅日本公使館

I-0323

第二課

第二課

昭和十三年三月拾日 接受

領普通公第二一號

昭和十三年二月十七日

在 盤 谷

總領事 伊 東 隆

治



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿

小學校訓導採用派遣方依頼ノ件

今般當地盤谷日本尋常小學校訓導後藤善吾ヨリ家事ノ都合ニ依リ辭職歸朝致度キ旨願出有之タル處右ハ事情止ムヲ待サシモノト認メラ、ニ付之ヲ許可スルコトニ内定ヲ與ヘ置キタ、ニ付テハ別ニ日本入會長ノ申請書記載事項ニ依リ至急後任訓導御詮衡採用ノ上御派遣方御取計相煩度此段御依頼申進ス
尙日本人會長ヨリノ申請書中其ノ採用條件第一項中九給俸以下ノ者ヲ要求セルハ財政上ノ點ヲ考慮シタルハ勿論ナ、カ學校職員ノ統制

文化事業部

第二課

第三課

第五課

急

文化事業部第二課
伊東隆
三月十七日

上現在職員ヨリモ下給者ヲ希望セルモノナリ現在職員ハ校長八給俸後藤訓導九給俸ニシテ來ル三月三十一日附各々一給宛昇給セシムル豫定ナリ

第四項中外國語ノ研究ニ興味ヲ有スル者ヲ要求セルハ特ニ暹羅語ヲ研究セシメ暹羅政府公認ノ有資格教員ヲテシメ巨ツハ暹羅人ニ對スル日本語普及教授ニ當ラシメント希望セルモノナリ第五項甲一期ハ三年ラ一期トストアルモ双方ノ合意ノ上之ノ更新延長シ成ル可ク長ク勤務出來得ル者ヲ希望セモノナリ

第六項中四月下旬迄ニ盤谷着ヲ要求セ、ハ當地小學校ハ四月二日迄ヨリ四月三十日迄夏期休暇ニシテ第一學期ノ授業ハ五月一日ヨリ開始セラル、コトト爲リ居レルニ付右ニ關シ合フコトヲ希望セルモノナリ

第七項神戸盤谷間ノ汽船ハ二階級ニシテ一等二百四、圓、三等七十、圓ナリ、付右ノ中間ヲ執、百七十圓ヲ船車料ト見積リ又度料其ノ他ノ費用トシテ二百五十圓ヲ加ヘ合計單身者四百二十圓ト見積リタ

ル
モ
ノ
ナ
リ。

I-0323



The Association for Japanese Community

SOL SAB SURIWONGSE ROAD NO. 2278.

BANGKOK, SIAM.

Telephone No. 30072

The Association for Japanese Community

SOL SAB SURIWONGSE ROAD NO. 2278.

BANGKOK, SIAM.

Telephone No. 30072

昭和 年 月 日
日人會第五四號

昭和二十三年二月七日

暹羅國日本人會

會長 三原新三



在盤谷

總領事 伊 采 隆 治 殿

後藤訓導後任採用方申請ノ件

拜啓本會經營盤谷日本尋常小學校訓導後藤善吾ハ昭和十年四月
八日ヨリ小學兒童ノ勞ヲ併而暹羅人ニ對スル日本語普及講習ニ從事
致シ居リ候處曩ニ進達ノ通り今般止ムラ得サル家事ノ都合ニ依リ辭職
歸朝致度旨本會ニ申出有之候仍テ本會ニ於テハ早速協議ノ結果右申出

昭和 年 月 日

暹羅國日本人會

ハ辭職願書ニモ記載ノ通ノ事情ニテ寔ニ同情スヘキモノアリト認メ
ラル、ニ付其希望ヲ容ル、コトニ致シ候間右御認可ノ上左記要項ニ
依リ後任詮衡方至急御取計ノ上適任者ヲ直ニ御採用被下度此段及稟
請候也
敬具

記

- 一 小學校本科正教員ニシテ現在九級以下ノ者（元任訓導トノ關係
上當會ニ於テハ初任ク際八級又ハ其レ以上ニ採用シ難シ）
- 一 年齢ハ三十才以下ニシテ成ル可ク妻帶者ニ希望ス
- 一 人格圓滑、容姿端麗ニシテ協調性アリ且ツ熱帯ノ生活ニ堪へ得ル
者
- 一 外國語ノ研究ニ興味ヲ有シ待ニ唱歌体操ニ堪能ナル者（兒童教育
ト暹羅人ニ對スル日本語教授ニ從テス）

The Association for Japanese Community

SOL SAB SURIWONGSE ROAD NO. 2278.
BANGKOK, SIAM.
Telephone No. 30072

昭和 年 月 日

暹羅國日本人會

ハ恩給ハ内附ト通算セラレ當地在勤中ハ其ノ三分ノ二月ヲ加算

セラル

以上

The Association for Japanese Community

SOL SAB SURIWONGSE ROAD NO. 2278.
BANGKOK, SIAM.
Telephone No. 30072

昭和 年 月 日

暹羅國日本人會

任期ハ三年ノ一期トスルモ繼續勤務四年以上ニ及フ者ニハ賜暇歸

朝(三ヶ月以内)許可ノ期定アリ

六 遅クトモ四月十七日頃神戸出帆四月二十四日頃盤谷着大阪商船西

貢丸ニテ着任ノコト

七 旅費シテ妻帯赴任ノ者ニハ五百九十圓也單獨赴任ノ者ニハ四百二

十圓也渡切(支度料等一切ノ含ム)

八 當地ニ於ケル待遇

イ、在勤手當左表ノ通

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級
三〇。銖	二〇。銖	一〇。銖	一〇。銖	九〇。銖	八〇。銖	七五。銖	七〇。銖	六五。銖	六〇。銖	五五。銖	五〇。銖	四五。銖	四〇。銖

(現在遣貨百銖ハ邦貨百五拾八円五拾錢)

ロ、宿舍又ハ宿舍料(二十銖以内)ヲ給ス

記載上の注意
 一、氏名ハ戸籍簿ト同一ノ字体ヲ用ヒ且假名ヲ施スベシ
 二、學校卒業ニハ教員タルノ資格ヲ得タル學校其他學歴上主要ナル事項ヲ記載スベシ
 三、恩給額ニハ一時恩給額又ハ普通恩給額及其ノ裁定年月日支給官廳ヲ記載スベシ
 四、任免賞罰等ハ一件毎ニ記シ且休職退職ニ關シテハ其ノ事由ヲ明記スベシ
 但シ一時若ハ臨時ノ委員補任及年末賞與恩給等恒例ニ屬スルモノハ記載スベカラズ

(第一号 甲書式)

年 月 日	任 免 賞 罰	俸 給 又 ハ 手 當	官 衙	所住現		學 歴		教 員 免 許 狀	
				年 月 日	事 項	年 月 日	事 項	年 月 日	事 項
昭和三年三月廿五日	北多摩郡谷保高等小學校訓導ヲ命ス	七級下俸(當分五五円)	東京府	暹羅國盤谷府盤谷日本尋常小學校内		大正十二年三月十日 静岡縣富士郡准教員養成所修了		小學校教員免許狀 東京府青山師範學校 静岡縣 後藤善吾 第一部卒業生 明治四十年六月三日	教員免許狀 師範學校中學校高等女學校 教員無試験檢定合格者 静岡縣 後藤善吾 英語 右教員免許令第三條ニ依 リ頭書學科ノ教員タルコ トヲ免許ス 昭和十年七月二十日 文部省 七第九壹壹六四號
昭和三年三月十五日	七級下俸 給與	七級下俸(六〇円)	全						
昭和五年三月廿一日	荏原郡六郷高等小學校訓導ニ任ス	七級上俸(六五円)	全						
昭和六年六月廿日	六級下俸(當分六七円) 給與	六級下俸(七〇円)	全						
昭和七年六月廿日	六級下俸 給與	六級下俸(七〇円)	全						
昭和七年八月一日	職記式改正ニ依リ東京府公立小學校訓導ニ補ス		全						
昭和八年三月廿一日	東京府東京市六郷第二尋常小學校訓導ニ補ス		全						
昭和九年三月廿一日	年功加俸年額四拾八円ヲ支給ス		全						
昭和九年四月六日	東京府東京市大森第四尋常小學校訓導ニ補ス		全						
昭和九年三月十五日	九級俸 給與	九級俸(七五円)	全						
昭和十年二月廿八日	在盤谷日本領事館へ出向ヲ命ス		全						
昭和十年四月八日	盤谷日本尋常小學校訓導ヲ命ス		全						
昭和十年三月廿日	八級俸 給與	八級俸(八五円)	全						

[野口成功堂印行]

東亞局

第二課

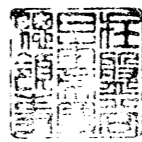
昭和十三年三月八日 接受

領普通公第二五號

昭和十三年二月二十四日

任 盤 谷

總領事 伊 東 隆 行



外務大臣 廣 出 弘 毅 殿

文化廳
第二課
原

小學校訓導東京府へ出向希望ノ事

當地在外指定盤谷日本尋常小學校訓導後藤善吾ヨリ辭意申出ノ事第二
關シハ二月十七日附領普通第二一號付以テ申渡置キタル處
今般訓導ヨリ別紙ノ通富方ヲ辭シ東京府へ出向致事キ希望ニ申述ヘ
其ノ許可方願出アリタリ同訓導ハ三年前東京府ヨリ黨方へ出向シ來リ
其ノ間兒童教育ニ精勵シ又旁ラ暹羅人ニ對スル日本語教授ラモ擔當シ
居リタルモノニ内外人ノ間ニ信用アリ本官モ出來得ル限り同訓導ノ
練習ヲ促シタル次第ナルカ事ヲ止ムラ得ス東京府ニ於テ採用ノ場ニ出

※未着

又代ニ致
芝園事務所

向テ許可スヘキ旨内諾ヲ與ヘ置キタリ就テハ今般東京府ニ對シ採用ノ
交渉ヲナスニ當リテハ本官ノ許可アリタル旨ノ通達費スル趣ナルニ付
右東京府へ通達方可御取計相煩度後藤訓導ヨリノ願書相添ヘ此段御
依頼申述ス

御願

小職儀

在東京実父廣太郎儀昨夏以来膝石病に苦しみ居り母
ぎんのみ一人看護に困難致し居り小

偶々昨年七月十日父と期を同じうして発病せし

小生義兄盲腸炎にて四十三才を一期と一六人の子供を残
して永眠仕り小子に先立たれし母は父の病氣を心配す
ると共に此の不幸に落膽の余りめつきり老衰致し小由にて

頻りと小生の帰心を希望するやう相成小此今年十月二十日
小生愚妻姉腦溢血にて之又急死致し小は驚く不幸に

母は早や狂人の如くになつて小生の帰心を念致致し居り
小趣きにて近來父にも増し衰弱致し小由に御座小

盤谷日本尋常小學校用紙

曩に長兄久英は海軍機関大尉にて今次事変に因下出動中
に御座小必に捧げし兄は軍籍にある身の当に在らず依て
次男の小生此の際兄に代りて父母への孝養を盡すと同時
に一は兄への銃後の守りを堅め以て後顧の憂へなからし
めんと考へ今回帰心を決心仕り小次第に御座小

就ては私儀東京府青山師範學校を卒業し東京府に満
七々勤続致し小は再び東京府へ出向致し希望を以て

曩に東京府へ出向許可ヲ願出たる処東京府に於て採用の場合
は許可する旨御内諾を得たるを以て目下東京府青山師範學校

教頭恩師大志乙五郎先生を通じて東京府に被採用方交渉中に
御座小在交渉に当りて本件貴官の御許可を得たる旨

外務省より東京府へ通達有るを必要とする由に付

盤谷日本尋常小學校用紙

右可然御通報方御取計被下矣此段及御預小也

昭和十三年二月二十三日

盤谷日本尋常小學校訓導

後藤善五



在盤谷帝國總領事伊東隆治殿

盤谷日本尋常小學校用紙

I-0323

逕啓

領普通公第二九號

昭和十三年三月八日

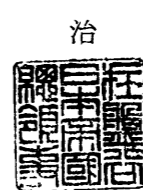
第二課

昭和十三年四月拾日接交

在 盤

總領事

伊 東 隆 治



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿
文部大臣 木 戸 幸 一 殿

盤谷日本尋常小學校學則改正ノ件

本件ニ關シ別紙ノ通日本入會ヨリ願出有之タニ處右ハ必要止ムラ
得サルモノト認メラル、ニ付願ノ通御認可相成度此段稟申ス
尙文部大臣宛稟申書御轉交相煩度。

諸官普通公第一三號

昭和十三年三月八日

在 盤 谷

總領事

伊 東 隆 治



外務大臣 廣 田 弘 毅 殿
文部大臣 木 戸 幸 一 殿

盤谷日本尋常小學校學則改正ノ件

本件ニ關シ別紙ノ通日本入會長ヨリ願出有之タル處右ハ必要止ムラ
得サルモノト認メラル、ニ付願ノ通御認可相成度此段稟申ス

I-0323

日本人會發第五六號

昭和十三年二月十二日

日本人會
會長 三原新

分給大臣 文部大臣 木戸幸一 教 改



整谷日本尋常小學校規則改正ノ件

今般別紙ノ通整谷日本尋常小學校ニ關スル規則ヲ改正シ昭和十三年四月一日ヨリ實施致度ニ付御認可相成度此段及御願候也

添付書類

一 整谷日本尋常小學校規則正副二通

一 整谷日本尋常小學校職員在勤手當、旅費及諸給與支給規程正副二通

一 舊規則一通

以上

整谷日本尋常小學校學則改正ノ要旨

一 從來ハ整谷日本尋常小學校規則中ニ小學校職員ノ在勤手當等給與ニ關スル規定ヲモ包含セ居リタルカ今同整谷日本尋常小學校職員在勤手當、旅費及諸給與支給規程トシテ給與ニ關スル規定ヲ別ニ定メタルモノニシテ新整谷日本尋常小學校規則ハ職員ノ給與ニ關スル條文ヲ削除シタル外大體從來通りナリ

一 整谷日本尋常小學校職員在勤手當、旅費及諸給與支給規程ニ於テ第一條「職員ノ在勤手當ハ左ノ範圍内ニ於テ之ヲ定ム

本科正教員通賃自四拾陸百五拾陸トアリタルヲ俸給別

ニ依リ一定額トシテ職員收入ノ安定ヲ圖リタリ

第二、三、七、八、九條ハ從來通り

第四、五、六、十、十一、十二、十三條ハ從來規定ナク必要ノ都度役員會ノ議決ニ依リ實施シ居リタル前例ヲ條文トセリ

以上

豊谷日本尋常小學校規則

第一章 總則

- 第一條 本校ハ豊谷日本尋常小學校ト稱ス
- 第二條 本校ハ豊谷市内ニ設置シ暹羅國日本人會之ヲ經營ス
- 第三條 本校ハ暹羅國在留日本人子弟ニ初等普通教育ヲ施スヲ以テ目的トス

第二章 教科及編制

第一節 教科

- 第四條 本校ハ小學校令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育ス
- 第五條 本校ハ修業年限ハ六箇年トス
- 第六條 本校ノ教科目ハ修身、國語、算術、國史、地理、理科、國畫、唱歌、體操、手工及暹羅語トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ
- 第七條 各學年ノ教授ノ程度及毎週教授時數ハ暹羅語以外ニ在リテハ小學校令施行規則第四號表ニ依ル但シ豊谷駐在帝國總領事ノ認可ヲ受ケ小學校令施行規則ニ準據シ教授時數ヲ増減スルコトアルヘシ

第二節 修業及卒業

- 第八條 各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ別ニ試験ヲ用フルコトナク兒童卒業ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ム
- 第九條 學校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授與ス
- 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第三節 學年、學期、休業日及式日

- 第十條 學年ハ四月一日ニ始メリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第十一條 學年ハ左ノ如ク三學期ニ分ツ
 - 第一學期 自四月一日至八月三十一日
 - 第二學期 自九月一日至十二月三十一日
 - 第三學期 自一月一日至三月三十一日
- 第十二條 本校ノ休業日ヲ左ノ通り定ム

一 一月一日及昭和二年勅令第二十五號ニ依リ休日タル祭日、祝日、日曜日

- 三 夏季休業日 自四月二日至四月三十日 二十九日開 四十日開
- 四 冬季休業日 自十二月二十九日至一月七日 十一日開 十日開
- 五 學年末休業日 自三月二十六日至三月三十一日 六日開
- 六 遷居國皇嘗饗日 九月二十日
- 七 遷居國憲法發布紀念日 十二月十日
- 八 本校創立紀念日 六月一日

其ノ他必要アル場合ハ遷居國日本人會長ノ申請ニ依リ警務駐在帝國總領事ノ認可ヲ受ケテ休業スルコト免アルヘシ

第十三條 紀元節、天長節、明治節及一月一日ニ於テハ職員及兒童ハ本校ニ參集シ小學校令施行規則第二十八條ニ依リ學式ス

第三章 入學、退學、轉學及懲戒

第十四條 本校ニ入學シ得ル者ハ年齡滿六歲以上トシ四月一日迄ニ滿六歲ニ達セサル者ハ其ノ學年中ニ入學スルコトヲ得ス

第十五條 本校ニ中途入學シ得ル者ハ學年相當年齡ニ達シ且ツ入學セムトスル學年相當ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項ノ學力ハ試驗ニ依リ檢定ス

第十六條 兒童ヲ入學セシメムトスル保護者ハ本校所定ノ入學願書ニ要項ヲ記入シ學校長ニ提出シ其ノ許可ヲ受ケヘシ但シ四月一日第一學年ニ入學セシメムトスル場合ハ右願書ハ其ノ年ノ二月末日迄ニ提出スコトヲ要ス

第十七條 兒童ヲ轉學又ハ退學セシムトスル保護者ハ其ノ事情ヲ具シテ學校長ニ願出ツヘシ

第十八條 學校長ハ他ノ小學校ニ轉學スル兒童アル場合ハ其ノ兒童ノ左學證明書、成績表及身體檢査表ヲ轉學先ノ學校ニ送付スヘシ

第十九條 學校長ハ他ノ小學校ヨリ轉學スル兒童ニ對シテハ考査ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スヘシ但シ前條ノ書類ヲ具備スルコトヲ要ス

前項ノ小學校トハ小學校令又ハ在外指定學校令ニ依ル小學校ヲ言フ

第二十條 學校長ハ兒童學籍簿ヲ編成シ又出席簿ヲ作り其ノ出席ヲ明ニスヘシ

第二十一條 學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨ケアリト認メタル兒童ノ出席ヲ停止スルコトヲ得

第二十二條 學校長及教員^{ハ教育}上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ懲罰ヲ加フルコトヲ得ス

第四章 職員

第一節 俸給及諸給與

第二十三條 本校職員ノ俸給及年功加俸ハ各駐在帝國總領事ノ定ムル規程ニ依ル

第二十四條 本校職員ノ在勤手當、旅費、其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ暹羅國日本人會之ヲ定ム

第二節 進退

第二十五條 本校職員ノ任免、増俸、減俸、懲戒ノ處分及其ノ他ノ進退ハ在外指定學校ノ指定ニ關スル規程ニ依ル

暹羅國日本人會長ハ前項ノ進退ニ關シ各駐在帝國總領事ニ内申スルモノトス

第五章 管理及監督

第二十六條 暹羅國日本人會長ハ本校ノ教育事務ヲ管理シ且ツ本校ヲ管理ス

第二十七條 學校及教員ノ執行スル教育事務ハ在外指定學校ノ指定ニ關スル規程ニ依リ各駐在帝國總領事ノ監督ヲ受ケ

第六章 經費及授業料

第二十八條 本校ノ經費ハ暹羅國日本人會之ヲ負擔ス

第二十九條 暹羅國日本人會ハ各駐在帝國總領事ノ認認可ヲ受ケテ本校就學兒童ヨリ授業料ヲ徴收スルコトヲ得但シ當分ノ間授業料ハ一箇月五十士丹トシ一家族ヨリ二人以上就學スルトキハ一人ハ全額他ハ半額トス

第三十條 兒童保護者ニシテ授業料ノ負擔ニ耐ヘサル者アルトキハ暹羅國日本人會理事會ノ議決ヲ經テ其ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第七章 學務委員

第三十一條 暹羅國日本人會長ハ學務委員四名ヲ囑託ス但シ内一名ハ學校長トス

第三十二條 學務委員ノ任期ハ一箇年トス

第三十三條 學務委員ハ學校經營ニ關スル事項ニ付暹羅國日本人會長ヲ補助シ又ハ其ノ諮詢ニ應ヂス

第八章 學校醫

I-0323

第三十四條 本校ニ學校醫ヲ置ク
第三十五條 學校醫ノ職務規程ハ文部省令ヲ準用ス

第九章 保護者會

第三十六條 保護者會ハ本校就學兒童ノ保護者及特志者ヲ以テ組織シ別ニ定ムル同會々則ニ依ル但シ其ノ會則ハ暹羅國日本人會長ノ承認ヲ得ルコトヲ要ス

第十章 附則

第三十七條 本規則ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ實施ス
第三十八條 本規則ニ定メナキ事項ハ小學校會施行規則及在外指定學校ノ指定ニ關スル規程ニ準據ス

豊谷日本尋常小學校職員在勤手當、旅費及諸給與支給規程

第一條 本校本正教員ノ在勤手當月額ハ本俸等給ニ應シ左表ヲ依リ之ヲ定メ其ノ他ノ教員ニ付テハ實情ニ應シ適宜之ヲ定ム

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級
一三〇	一二〇	一一〇	一〇〇	九〇	八〇	七五	七〇
九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級		
六五	六〇	五五	五〇	四五	四〇		

校長タル本科正教員ニ對シテハ月額二十餘ノ加給ヲ爲スコトヲ得
第二條 在勤手當ノ支給ニ關シテハ豊谷駐在帝國總領事ノ定ムル俸給ニ關スル規程ヲ準用ス

第三條 職員ニシテ疾病其ノ他ノ故障ニ依リ缺勤百二十日ヲ超ユル者ハ其ノ後ノ在勤手當ノ支給ヲ停止ス但シ特殊ノ事情アル者ハ暹羅國日本人會理事會ノ議決ヲ經テ更ニ支給スルコトヲ得

第四條 職員私用ノ爲任地ヲ離レ缺勤十日ヲ超ユルトキハ其ノ缺勤超過日數ニ對スル在勤手當ヲ支給セズ

第五條 本校職員ノ公務出張旅費ヲ左ノ通り定ム但シ場合ニ依リテハ打切旅

費ヲ支給スルコトアルヘシ

一 船車料 汽車汽船賃二等其ノ他ハ各實費

二 日當宿泊料 暹羅國內 日當 二錢 宿泊料 三錢

日本國內 日當 二圓 宿泊料 四圓

船中ハ宿泊料ヲ支給セス

第六條 本校教員タルヘク日本ヨリ新ニ赴任ノ場合ハ支度料トシテ邦貨二百五十圓ヲ支給ス

日本以外ノ地方ヨリ赴任ノ場合ハ前項ニ準シ暹羅國日本人會理事會ノ定ムル所ニ依ル

第七條 本校職員ニハ一年一周年末賞與ヲ支給スルコトヲ得

第八條 本校教員ニハ宿舍又ハ宿舍料ヲ支給ス但シ宿舍料ハ月額二十錢以内トシ當時ノ事情ニ應シ暹羅國日本人會理事會ノ定ムル所ニ依ル

第九條 本校職員ニシテ職務ノ爲傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ醫療實費ヲ支給ス

第十條 本校教員タルヘク新ニ赴任シ又ハ本校員タリシ者解任歸國スル場

合ノ兼費ハ本規程第五條支給額ニ準シ暹羅國日本人會ニ於テ之ヲ定ム

第十一條 本校教員ニシテ日本ヨリ赴任ノ際妻ヲ同伴シ若ハ赴任後同居ノ目的ヲ以テ妻ヲ呼ビ寄セ又ハ歸國セシムル場合ハ往復各一回ニ限リ前條ニ準シ旅費ヲ支給ス

第十二條 前二條ノ場合ニ於ケル本校教員及其ノ妻ノ入國稅ハ暹羅國日本人會之ヲ負擔ス

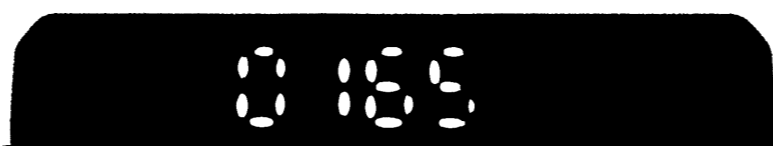
第十三條 職員ニシテ特ニ功勞アリタル者ニハ賞與金ヲ支給ス

職員ニシテ成績佳良ナリシ者暹羅國ノ場合ハ慰勞金ヲ支給ス

昭和九年^{十一}及^四月改正

暹羅國日本人會會則

I-0323



暹羅國日本人會々則

目次

第一章 總則	一
第二章 會員	一
第三章 役員	三
第四章 職員	四
第五章 總會及役員會	五
第六章 會計	六
第七章 事業	八
第八章 雜則	九
日本人會事業規定	
總則	一〇
俱樂部細則	一一

I-0323

0155

社會部細則	一四
教育部細則	一五
盤谷日本尋常小學校規則	一七
盤谷日本尋常小學校職員ノ職務及服務ニ關スル規定	二五
盤谷日本尋常小學校教員俸給支給規則	二六

暹羅國日本人會々則

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ暹羅國日本人會ト稱ス
- 第二條 本會ハ暹羅國ニ在留スル日本人ヲ以テ組織シ事務所ヲ盤谷ニ置ク
- 第三條 本會ハ會員相互ノ親睦ト邦人福祉ノ擁護増進ヲ圖リ邦人子弟ノ教育ヲ行ヒ且日暹ノ親善ト同胞ノ發展ヲ期スルヲ以テ目的トス
- 第四條 本會ハ暹羅國駐劄帝國公使ヲ名譽會頭ニ推戴ス

第二章 會 員

- 第五條 本會ノ會員ヲ分チテ名譽會員、正會員、維持會員トス
- 一、名譽會員 本會ノ爲テニ功勞アリタル者ニシテ總會ノ決議ニヨリ推薦セラレタル者
- 一、正會員 本會則所定ノ會費ヲ納出スル者
- 一、維持會員 本會維持ノ爲毎月一定ノ金額ヲ寄附セラル、個人又ハ法人

第六條 正會員ハ會費ヲ贖出スベシ 會費ハ月額貳銖以上トス

第七條 本會ニ入會セントスル者ハ會長ニ申出デ役員會ノ承認ヲ受クベシ

第八條 會員ニシテ退會セントスル者ハ其ノ旨文書ヲ以テ會長ニ届出ヅベシ 滯納ノ會費アル時ハ届出

ト同時ニ之ヲ完納スルヲ要ス

第九條 本會ノ規定ニヨリ除名セラレタル者ニシテ再ビ本會ニ入會セントスル時ハ總會ニ於テ三分ノ二

以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第十條 正會員ハ役員選舉權ヲ有シ總會ニ出席シテ之ヲ行使ス 但シ一人一票トス

「總會開會ノ前日迄ニ會費ヲ滯納スルコト三月若ハ其ノ以上ニ及ブモノハ前項ノ選舉權及ビ表

決權ヲ有セズ」

第十一條 役員選舉施行ノ當時ニ於テ十一年以上本會正會員キシ才後其選舉權ヲ有シ且現ニ遼羅閣ニ在リ

有タル滿二十歳以上ノ者ト後其被選舉權ヲ有セ 但シ本會ヨリ俸給ヲ受クル者ハ役員被選舉權ヲ

有セズ

第十二條 會員ニシテ六ヶ月以上會費ヲ滯納シ又ハ本會會員タル體面ヲ毀損シ若ハ本規則第三條ノ目的ニ

背馳スル行爲アリタル者ハ總會又ハ役員會ノ決議ニヨリ相當ノ制裁又ハ除名セララルコトアル

ベシ

第十三條 正會員ニシテ盤谷以外ニ在留スル者ハ役員會ノ決議ニヨリ會費ヲ月額一銖以上トス

第三章 役員

第十四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名
副會長 一名
理事 七名

第十五條 會長ハ會務ヲ總理シ會ヲ代表ス

第十六條 理事ハ會長ヲ輔佐シ會務ヲ掌理ス

但シ役員會ノ決議ニ依リ各理事ノ主任部署ヲ定ムルコトヲ得

第十七條 役員ハ會務ニ付連帶責任ヲ負フ

第十八條 會務執行上必要アル時ハ役員會ノ決議ニヨリ委員ヲ囑託スルコトヲ得

第十九條 役員及前條ノ委員ハ名譽職トス

第二十條 役員ハ總會ニ於テ之ヲ選舉ス 選舉ハ無記名投票ニヨル

第二十一條 會長ハ出席者過半数ノ得票者ヲ以テ當選トス

得票過半数ニ達スル者ナキ時ハ高點得票者二名ニ就キ決選投票ヲ行フ

- 第二十二條 理事ハ連記投票ニヨリ高得票者^九名ヲ以テ當選者トシ當選者ニ次グ高得票者三名ヲ次點者トス
- 第二十三條 役員ノ選舉ニ於ケル同點得票者ノ順位ハ抽籤ニ據リ之ヲ決ス
- 第二十四條 役員ノ任期ハ一年トス 但シ重任ヲ妨ゲズ
- 役員改選ノ際ニ於テハ前任ノ役員ハ後任ノ役員ニ事務ノ引繼ヲ了スルヲ俟テ退任スルモノトス
- 第二十五條 會長缺員トナリタル時ハ^{副會長ハ會長ニ代リ}總會ニ於テ之ヲ補缺ス
- 第二十六條 會長ハ^{副會長ハ會長ニ代リ}總會ニ於テ之ヲ補缺ス
- 會長代理ハ會長ノ事故繼續期間中會長ノ職務ヲ代理ス
- 第二十七條 理事缺員ヲ生ジタル時ハ次點者中ヨリ順位之ヲ補缺ス
- 理事缺員定員ノ過半数ニ達シタル時ハ補缺選舉ヲ行フ
- 第二十八條 補缺役員ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス
- 第二十九條 役員ニ當選シタル者ハ役員會ニ於テ相當ノ事由アリト認メタル場合ニアラザレバ辭任スルコトヲ得ズ

第四章 職員

- 第三十條 本會ニ有給書記若干名ヲ置クコトヲ得
- 第三十一條 書記ノ任免給與及賞罰ハ役員會ノ決議ニヨリ會長之ヲ行フ
- 第三十二條 書記ハ役員ノ命ヲ承ケ會務ニ從事ス
- 第三十三條 本會事業ノ經營ニ付必要アル時ハ有給又ハ無給ノ職員ヲ置クコトヲ得
- 前項ノ職員ニ關スル規定ハ必要ニ應ジ別ニ之ヲ定ム

第五章 總會及役員會

- 第三十四條 總會及役員會ハ會長之ヲ召集ス
- 第三十五條 總會及役員會ハ會長ヲ以テ其ノ議長トス但シ議長事故アル時ハ出席者中ヨリ臨時議長ヲ選任ス
- 第三十六條 定期總會ハ毎年四月中之ヲ召集ス
- 定期總會ニ附議スベキ議案ハ總會ノ期日ヨリ七日以前ニ之ヲ會員ニ通知スルコトヲ要ス
- 會員ニシテ定期總會ニ議案ヲ提出セントスル者ハ三月末日迄ニ文書ヲ以テ其ノ理由ヲ附シ會長ニ申出ヅベシ
- 第三十七條 臨時總會ハ役員會ニ於テ必要ト認メタル時若ハ會員十五名以上ノ請求アリタル時之ヲ召集ス
- 前項後段ノ場合ニ於テハ請求者ノ連署セル文書ヲ以テ其ノ理由ヲ會長ニ申出ヅベシ
- 臨時總會ニ付議スベキ議案ニ關シテハ第三十六條第二項ノ規定ヲ準用ス

但シ緊急案ハ此ノ限リニアラズ

六

第三十八條 第三十六條第二項及第三十七條第二項及第三項ノ規定ハ總會ノ議事ニ關スル緊急動議ノ提出ヲ妨グズ

第三十九條 總會ノ定足數ハ在盤谷正會員總數ノ三分ノ一トス

第四十條 總會ノ議事ハ出席者ノ過半數ヲ以テ決ス 可否同數ナル時ハ議長之ヲ決ス

第四十一條 役員會ハ毎月少クトモ一回之ヲ召集ス

第四十二條 役員會ノ定足數ハ理事ノ定員ノ過半數トス

第四十三條 第四十條ノ規定ハ役員會ノ議事ニ之ヲ準用ス

第四十四條 總會及役員會ノ議事ニ關スル規定ハ必要ニ應ジテ之ヲ定ムルコトヲ得

第四十五條 總會ノ決議事項及役員會ノ重要ナル決議事項ハ之ヲ帝國領事ニ報告シ且會員ニ通知ス

第六章 會 計

第四十六條 本會ノ會計年度ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル

第四十七條 本會ニ左ノ基金又ハ積立金ヲ置クコトヲ得

一、基 本 金

二、特 別 基 金

三、諸 積 立 金

第四十八條 前項基本金及特別基金ノ處分ハ總會ニ於テ出席會員三分ノ二以上ノ同意ヲ經ルヲ要ス 但シ總會ノ決議ヲ經テ之ヲ年度收入ニ繰入ルルコトヲ妨グズ

第四十九條 本會ノ經費ハ左ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨ス

一、會 費

二、維 持 費

三、補 助 金

四、寄 附 金

五、授 業 料

六、諸 手 數 料

七、俱樂部收入

八、雜 收 入

第五十條 本會經費ノ支出ハ豫算ニ據ル 豫算ハ款項ニ依リ總會ノ議決ヲ要ス

七

第五十一條 豫算外又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲メ豫計豫算ニ豫備費ヲ設ク
第五十二條 豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ハ其ノ必要ナル限リ豫備費ヨリ充テ
第五十三條 歳入出ノ決算ハ定期總會ニ於テ其ノ承認ヲ經ルヲ要ス
第五十四條 毎年度歳計剩餘金ハ之ヲ基本金ニ繰入ルベシ 但シ總會ノ決議ニ依リ翌年度收入ニ繰入ルルコ
トヲ得

第七章 事業

第五十五條 本會ニ左ノ事業部ヲ置ク

- 一、俱樂部 (野球、^{庭球、卓球}、他ノ運動、酒保、等ノ各部)
- 二、社會部 (共濟、庶務、^{勸業管理}、墓地建設、等ノ各部)
- 三、教育部 (學校、圖書、講演、談話、等ノ各部)
- 四、其ノ他必要ト認ムルモノ

前項各部ノ事業ノ範圍ハ役員會ニ於テ之ヲ定ム

第五十六條 役員會ハ前條各部ノ事業ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第五十七條 毎年度事業ノ經過及成績ハ定期總會ニ於テ之ヲ報告スルヲ要ス

第八章 雜則

第五十八條 本會則ノ規定セザル事項ニ付テハ慣例ニ據ル慣例ナキ時ハ役員會又ハ總會ノ決議ニヨル

第五十九條 本會則ハ總會ニ於テ出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレバ之ヲ改正スル事ヲ得ズ

第六十條 本會則効力發生ノ時ニ於テ本會々員タルモノハ本會則第七條ニヨリ入會シ且現ニ離出シツツア

ル會費及部費ノ合計額ヲ以テ會費トスルコトヲ承認セラレタル者ト看做ス

第六十一條 本會則ハ總會ノ議決ヲ經タル日ヨリ其ノ効力ヲ發生ス

第六十二條 本會則改正ニヨリ選舉セラレタル新役員ノ任期ハ前役員ノ殘任期間トス

右ハ昭和八年八月二十九日總會ノ議決ヲ經タルモノナリ

日本人會事業規定

總 則

- 第一條 本規定ハ本會會則第五十六條ニ據リ役員會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム
- 第二條 本會會則第五十五條ノ規定スル各部事業ハ同會則第三條ノ趣旨ニ基キ日本人會事務所ヲ本據トシテ行フ
- 第三條 事業遂行ノ爲日本人會ハ適當ノ土地、建物ヲ所有シ又ハ借用シ各事業ニ適スル設備ヲ爲シ會員中ヨリ選定セル部委員ヲシテ各分科事業ノ指導開發ヲ爲サシム
- 第四條 本會會則第三條ノ目的達成ノ爲一部會員又ハ團體ニシテ本會ノ設備器具ヲ特ニ使用セントスル際ハ豫メ會長ニ申出其許可ヲ受クルコトヲ要ス 但シ其ノ使用料ハ徵收セザルモノトス
- 第五條 前條ノ申出ニ對シ會長之ヲ適當ト認メタルトキハ相當適宜ノ援助ヲ與フルコトヲ得
- 第六條 本規定第三條ニ據ル部委員ノ任期ハ本會役員ノ任期ニ準ズ
- 第七條 部委員ハ委任セラレタル件ニ關シテ役員會ニ意見ヲ提出シ其ノ同意ヲ得テ又ハ會長ノ意見ニ從ヒ各其ノ事業ヲ指導ス

第八條 本會事業ノ經過ハ書記之ヲ記録シ役員會ニ報告スルト共ニ一般會員ノ供覽ニ備フベシ

俱樂部細則

- 第九條 俱樂部ハ會員ノ集合、會食ノ設備ヲ有シ左ノ娛樂、運動ノ器具ヲ常備ス
- 一、撞球ニ關スル一切ノ設備及器具
 - 二、ピンボールニ關スル一切ノ設備及器具
 - 三、野球、柔劍道用具
 - 四、圍碁、將棋及麻雀用器具
 - 五、其ノ他役員會ノ決議ヲ經タル一般會員ノ希望ニ依ル娛樂、運動器具
- 第十條 運動及娛樂器具使用ノ方法ニ付テハ各部委員ニ於テ別ノ内規ニ依リ指導啓發セララルモノトス
- 第十一條 俱樂部内ニ於テ飲食物ヲ供給スル爲會員中ヨリ希望者ニ對シテ酒保ノ經營ヲ許可ス、其ノ請負額、販賣値段經營方法及期間ハ別ニ役員會ノ決議ニ從フ
- 第十二條 酒保經營者ハ本俱樂部内ニ於テノミ飲食物ヲ供給シ俱樂部外へ供給スルコトヲ得ズ
- 第十三條 會員ハ規定ニ基キ俱樂部及同備付器具圖書類ヲ使用スルコトヲ得
- 會員外ノモノハ會員ノ紹介ニ依リ他ノ會員ニ迷惑ヲ及ボサザル時紹介會員ノ責任ニ於テ俱樂部

ニ出入シ其ノ備付器具、圖書類ヲ使用、閲覧スルコトヲ得
俱樂部ノ開放時間ハ左ノ通トス

一、我國ノ大祭日、祝日、暹羅政府ノ公表セル公休日、日曜日及學校休校中ハ午前八時ヨリ午後十二時迄

二、土曜日ハ午後一時ヨリ午後十二時迄

三、其ノ他ノ日ハ午後五時ヨリ午後十二時迄

第十五條 役員會ノ開會中又ハ多數會員ノ集合セル場合其ノ他公私用ノ目的ニ依リ其ノ使用料ヲ拂ヒタル一部會員ノ集合スルトキハ會長ハ必要ニ依リ俱樂部ノ全部又ハ一部ヲ閉鎖スルコトヲ得

第十六條 俱樂部備付ノ運動具、娛樂器具使用ニ關シテハ次ノ通トス
一、運動及娛樂器具ヲ使用セントスルモノハ管理人ニ申出ベシ、使用後ハ管理人ニ返却シ其ノ點檢ヲ受クベシ
二、器具使用中紛失シタルモノハ之ヲ辨償スベク又破損シタルモノハ管理人ニ申出ヅベシ
三、管理人ハ使用者ガ之ヲ故意ニ破損セリト認メタルトキハ役員會ニ申告シテ其ノ判定ヲ待ツベシ

第十七條 撞球器具使用ニ對シテハ次ノ使用料ヲ徵收ス

(イ) 會員ハ一ゲーム毎ニゲーム料^五十士丹 但シ會員ニシテ一ヶ月ゲーム代五銖ヲ超ユルモノハ超過額ヲ免除ス
會員外ハ一ゲーム毎ニゲーム料十五士丹

(ロ) 單獨ニ研究ノ爲ニスル撞球ハ他人ニ迷惑ヲ及ボサザル際ニ限り十五分間毎ニ十士丹ノ使用料ヲ徵收ス

(ハ) 撞球器具ハ取扱ニ特ニ注意ヲ要スル爲左ノ過失ニ對シテハ辨償金ヲ徵收ス
球ヲ撞球臺ヨリ落シタル時ハ十士丹、羅紗ヲ破損セル時ハ龜裂ノ長サ一時ニ付五銖トス
會員ニシテ私用ノ目的ニ依リ俱樂部ノ一部ヲ使用セントスル場合ニハ豫メ會長ノ許可ヲ受クルヲ要ス 其ノ使用料ハ左ノ通トス

晝 間 二 銖 夜 間 五 銖

但シ特別ノ必要ニ依リ午後十二時以後繼續使用スル場合ハ管理人ニ其ノ旨ヲ告ゲ一時間ヲ増ス
毎ニ二銖ノ使用料ヲ納ムベキモノトス

第十九條 本會書記ハ俱樂部管理ノ責ニ任ジ備付ノ什器及一切ノ用具、器具ヲ管理シ其ノ移動アル毎ニ會長ニ報告スベシ

社會部細則

- 第二十條 社會部ハ會員相互ノ福祉ノ増進、同胞發展及共濟、庶務、墓地建設ニ關スル事項ヲ調査、研究シ役員會ニ諮リテ之ヲ實行ス
- 第二十一條 本部ハ定期ニ會報ヲ發行ス、會報ニハ會務ノ報告、會員ノ消息、會員ノ意見乃至希望論說等ヲ掲載スルモノトス 當分ノ間年二回發行ス
- 第二十二條 本部ハ會員ノ救恤弔慰ノ目的ノ爲左ノ行爲ヲ爲ス
 - 一、會員又ハ其ノ家族ノ疾病災難ニ罹リタルモノヲ慰問又ハ救恤スルコト、 此ノ支出限度ハ三十銖トス
 - 二、會員又ハ家族ノ死亡シタル時ハ之ヲ弔問シ三十銖ヲ超エザル範圍ニテ葬送又ハ香料ヲ贈ルコト
 - 三、縁者ナキ會員死亡シタル時ハ葬送ヲ爲スコト
 - 四、會員ノ一時困厄、窮乏ニ陥レルモノヲ救恤スル爲ニケ年以上會員タリシモノニ限り一ヶ月十銖ノ生活費ヲ三ヶ月間補助ス
- 前各項ノ規定ハ帝國官憲又ハ會員ノ申出ニヨリ會員以外ノ在留同胞及旅行者ニモ役員會ノ決議ヲ經テ準用スルコトヲ得

- 第二十四條 會員ニ非ズトモ籍立ノ生計ヲ營トシ婦人ニシテ本部ノ主旨ニ賛同シテ毎月五十士丹以上ノ金ヲ爲ス者ハ之ヲ部員トシ前條各項ノ行爲ヲ適用スルコトヲ得
- 第二十五條 本會ノ爲特ニ功勞顯著ナル者ニ對シテハ紀念品又ハ感謝狀ヲ贈呈シテ之ヲ表彰ス
- 第二十六條 前三條ニ關スル行爲ノ實行及其ノ程度ハ役員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス
- 第二十七條 本部ハ同胞ノ爲將來盤谷ニ於テ日本人共同墓地ヲ建設スベク別ニ内規ヲ定メ適當ノ認メル時期ニ於テ役員會ノ決議ヲ經テ其ノ實行ヲ着手ス

教育部細則

- 第二十八條 教育部ハ小學校經營ニ關スル一切ノ事項及圖書ノ備付並閱覽ニ關スル施設其ノ他講演談話會ヲ開催シテ同胞ノ智識ヲ啓發スルコトニ努ム
- 第二十九條 小學校ハ日本帝國在外指定學校ニ關スル規定ニ依リ暹羅國教育條令ニ反セザル範圍内ニ於テ別ニ定ムル盤谷日本尋常小學校規則ニ據リ邦人兒童ノ教育ヲ行フ
- 第三十條 圖書ノ購入ハ役員會ノ決議ニ依ル 但シ會員ハ新ニ購入スベキ圖書ニ關シ役員會ニ建議スルコトヲ得

- 一六
- (一) 新聞雜誌ハ櫃外ニ備ヘ俱樂部内ニテ自由ニ閲覽スルコトヲ得
 - (二) 櫃内ノ書籍ハ借覽證ニ書名、番號、氏名ヲ記シ管理人ノ許可ヲ得テ借覽スベク一回ノ貸出期間ヲ十日トシ二部以上ヲ超エザルモノトス
 - (三) 用濟ノ上ハ管理人ニ返却シ其ノ借覽證ニ其ノ旨明記スベシ
 - (四) 貸出心得ハ第十六條第一、二、三項ニ準ズ
- 第三十一條 書籍ノ整理ハ毎年一、二月ノ候本會役員及部委員之ヲ行ヒ役員會ニ報告スベシ

附 則

本規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ實施ス

盤谷日本尋常小學校規則

第一章 設 置

第一條 本會ハ盤谷日本尋常小學校ヲ經營シ本會内ニ之ヲ設置ス

第二章 學 則

第一節 總 則

第二條 本校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並ニ其ノ生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二節 修業年限、學年學期、休業

第三條 本校ノ修業年限ハ六箇年トス

第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 學年ハ左ノ如ク三學期ニ分ツ

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日ニ至ル

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第六條 本校ノ休業日ヲ左ノ通り定ム

一、祝日、大祭日

二、日曜日

三、夏季休業日

〔四月二日ヨリ同月十五日ニ至ル〕 計三十日間

四、冬季休業日

〔八月十六日ヨリ同月卅一日ニ至ル〕 十五日間

五、學年末休業日 三月廿六日ヨリ三月卅一日ニ至ル

六日間

六、暹羅國天長節祝日

(九月十日)

七、暹羅國憲法發布紀念日 (十二月十日)

八、學校創立紀念日 (六月一日)

第三節 學科課程、教授時數並ニ授業短縮

第七條 本校ノ學科目ハ修身、國語、算術、國史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操、手工及暹羅語トシ

女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

第八條 各學科ノ課程及毎週ノ授業時數ハ小學校令施行規則第四號表ニ據ル 但シ暹羅語科ハ此ノ限リ

ニアラズ

第九條 學校長ハ暑氣甚シキ季節ニ於テハ小學校令施行規則ニ準據シ毎日ノ授業時數ヲ減ズルコトヲ得

第四節 入學、退學、轉學及懲戒

第十條 本校ニ入學シ得ル者ハ年齢滿六歲以上トシ其ノ年ノ四月一日迄ニ滿六歲ニ達セザル者ハ其學年中ニ入學スルコトヲ得ズ

第十一條 就學ノ始期ニ達スベキ兒童ヲ入學セシメントスル時ハ其ノ保護者ニ於テ本校所定ノ入學願書ニ

要項ヲ記入シ毎年一月末日迄ニ學校長ニ差出シ其ノ許可ヲ受クベシ

第十二條 第二學年以上ニ入學ヲ許スベキ者ハ相當年齢ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒ヘタル者ト同等ノ學力

ヲ有スルモノタルベシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其教科目ニ付キ試験ニ依リ檢定ス

第十三條 他小學校ニ轉學スル兒童ニハ學校長ハ其ノ兒童ノ在學證明書、成績表及身體檢査表ヲ移轉先ノ

學校ニ送付スルモノトス

第十四條 他小學校ヨリ轉學スル兒童ニ對シテハ試験ヲ行ハズシテ同一學年ニ編入ス 但シ前條記載ノ必

要書類ヲ具備スルモノタルベシ

第十五條 兒童退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クベシ

第十六條 學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ノ妨ゲアリト認メタル兒童ノ出席ヲ停止スルコトヲ得

第十七條 學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フコトアルベシ 但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ズ

第五節 修業及卒業

第十八條 各學年課程ノ修了又ハ全教科ノ卒業ヲ認定スルニハ別ニ試験ヲ行ハズ兒童平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ム

第十九條 校長ハ學年末ニ各學年ヲ修了セリト認ムル者ニハ修業證書ヲ授與ス

第二十條 本校全教科ノ課程ヲ卒ヘタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第六節 授業料

第二十一條 本會ハ就學兒童ヨリ授業料ヲ徴收ス

授業料ハ一人一ヶ月銀五十士丹トシ一戸ヨリ二人以上就學スル時ハ一人ハ全額他ハ半額トス 但シ授業料納付不能ノ旨保護者ヨリノ申出ニ對シテハ適當ト認メタルモノニ限り之ヲ免除スルコトヲ得

第三章 職員

第二十二條 本校職員ノ採用、解職、増俸、減俸及其ノ他ノ進退ハ在外指定學校ニ關スル規定ニ據リ役員會之ヲ決議シ帝國領事ノ承認ヲ得テ實行ス

第二十三條 女教員ニシテ出産ノ場合ハ出産ノ前後ヲ通ジテ二ヶ月ノ範圍内ニ於テ靜養ヲ許可スルコトヲ得

第二十四條 校長及教員ニハ本校在勤中所定ノ在勤俸ヲ支給ス

第二十五條 職員在勤月俸額ハ左記ノ範圍内ニ以テ之ヲ定ムベシ

本科正教員 選賃自四拾銖至百五拾銖

專科正教員 同 自三拾銖至百銖

准 教 員 同 自二拾銖至五拾銖

代 用 教 員 同 自二拾銖至五拾銖

第二十六條 職員在勤俸ハ在職一ケ年以上勤續スルニアラザレバ増給セス 但シ勤務ノ成績特ニ顯著ナル者ハ此ノ限ニアラズ

第二十七條 職員トシテ新ニ任用セラレタル時ハ當月ノ在勤俸ハ發令ノ翌日ヨリ起算シ日割ヲ以テ之ヲ支給シ解職シタル場合ニハ其ノ月ノ全額ヲ支給ス 解職後殘務ヲ處理スル爲出勤シタル場合ニハ解

職當時ノ支給額ニ依リ出勤日數ニ應ジ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第二十八條 職員ニシテ疾病其ノ他ノ故障ニヨリ缺勤三ヶ月ヲ超エタルモノハ其ノ以後ノ在勤俸半額ヲ減ジ尙一ヶ月ヲ越エタルモノハ支給ヲ停止ス 但シ特殊ノ事情アルモノハ役員會ノ決議ニヨリ更ニ支給スルコトヲ得

第二十九條 校長及教員ノ住居トシテ本會建物ノ一部ヲ無料提供ス若シ本會建物ニ其ノ餘裕ナキ場合ハ住宅料トシテ學校長ニハ月額二拾銖ヲ、教員ニハ月額拾銖ヲ給與スルコトヲ得

第三十條 職員ニシテ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ治療費ヲ給ス

第三十一條 職員ニシテ特ニ功勞アル者ニハ慰勞金ヲ支給スルコトアルベシ

第三十二條 職員ノ赴任及歸國旅費ハ役員會ニテ協議シ帝國領事ノ承認ヲ經テ支給ス

第四章 管理及監督

第三十三條 本會會長ハ本校ノ教育事務ヲ管理ス

第三十四條 學校長及教員ノ執行スル教育事務ハ在外指定學校ニ關スル規定ニヨリ在盤谷帝國領事ノ監督ヲ受クベキモノトス

第三十五條 本校ハ在盤谷帝國領事及外務文部兩大臣ノ監督ヲ受ク

第五章 基金及維持費

第三十六條 本校ノ基礎ヲ鞏固ニシ維持ノ安定ヲ期スル爲必要ニ應ジ有志者ヨリ基金及維持費ヲ募集スルコトアルベシ

第六章 學務委員

第三十七條 本校ニ學務委員トシテ本會理事二名保護者會ヨリ一名及學校長ノ四名ヲ置ク

第三十八條 學務委員ノ任期ハ一年トス

第三十九條 學務委員ハ左ニ掲クル事項ニ付會長ヲ補佐シ又ハ其ノ諮問ニ應ジテ意見ヲ陳述ス

- 一、學校ノ管理ニ關スルコト
- 二、就學督促ニ關スルコト
- 三、設備ニ關スルコト
- 四、經費豫算ノ調製ニ關スルコト
- 五、學校基本財産ニ關スルコト
- 六、教科目ノ加除選定ニ關スルコト

第七章 學校 醫

二四

第四十條 本校ニ學校醫一名ヲ置ク學校醫ハ會長ノ内申ニ依リ帝國領事之ヲ囑託ス
第四十一條 學校醫ノ職務規定ハ文部省令ヲ準用ス

第八章 保護者會

第四十二條 保護者會ハ本部就學兒童ノ保護者及特志者ヲ以テ組織シ別ニ定ムル内規ニ據ル

第九章 附 則

第四十三條 本規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第四十四條 本規則ニ規定ナキ事項ハ小學校令、小學校令施行規則及在外指定學校ニ關スル規定ニ準據ス

盤谷日本尋常小學校職員ノ職務及服務ニ關スル規定

- 第一條 學校職員ハ教育ニ關スル趣旨ヲ奉體シ法律命令ニ從ヒ誠實其ノ職務ニ服スベシ
- 第二條 學校長ハ校務ヲ處理シ所屬職員ヲ統督ス
- 第三條 訓導ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ且之ニ屬スル事務ヲ整理ス
- 第四條 職員ハ擅ニ其ノ職務ヲ離レ又ハ職務上住居スベキ地ヲ離ルルコトヲ得ズ
- 第五條 職員ハ所管領事ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ營利ヲ目的トスル業務ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第六條 職員ハ營利會社ノ役員トナリ又ハ給料ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行ヒ若ハ金錢上ニ關スル行爲ノ保證人又ハ立會人トナルコトヲ得ス
但シ所管領事ノ認可ヲ得タル時ハ此ノ限ニアラズ
- 第七條 本規定ニ定メナキ事項ハ在外指定學校ノ指定ニ關スル規程ニ準據ス

二五

盤谷日本尋常小學校教員俸給支給規則

第一條 教員ノ月俸額ハ左表ニ據リ之ヲ定ム

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級
本科正教員	一六五	一四五	一三五	一二五	一一五	一〇五	九五	八五	七五	六五	五五	五〇	四五	四〇
専科正教員	一一五	一〇五	九五	八五	七五	六五	五五	五〇	四五	四〇	三五			
准教員	六五	五五	五〇	四五	四〇	三五	三〇							

代表教員ノ月俸ハ準教員ニ準ズ

第二條 教員ノ俸給ハ在職一ヶ年以上勤続スルニアラザレバ昇給セス

但シ勤務ノ成績特ニ顯著ナル者ハ此ノ限ニアラズ

第三條 休職者ニハ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ支給ス 但シ休職ノ期間ハ在外指定學校ノ指定ニ關スル規程第十三條ニ據ル

第四條 教員ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル時ハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ支給スベシ

一、懲戒ニヨリ免職ニ處セラレタルトキ

二、免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失効ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第五條 教員死亡シタル時ハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラズ在職最終ノ本俸月額ノ三ヶ月分ヲ其ノ遺族ニ給スベシ 但シ遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ教員退職休職若ハ死亡シタル時ハ其ノ當月分月俸ノ全額ヲ支拂フベシ

第六條 俸給ハ新任、復職、増俸、減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ支給ス

第七條 疾病ノ爲執務セザルコト九十日ヲ超ユル者及私事ノ故障ニ因リ執務セザルコト六十日ヲ超ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ズ 但シ公務ノ爲傷疾ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ特旨賜暇休養スルモノハ此ノ限リニアラズ

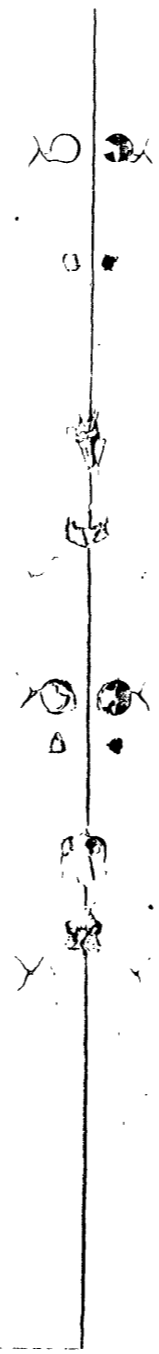
第八條 俸給ハ毎月廿一日之ヲ支給スベシ 但シ當日休日ナル時ハ前日ニ繰上グベシ

第九條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位ノ端數ヲ生ズルトキハ四捨五入錢位ニ進ムベシ

第十條 本俸ハ支給當日ノ公表爲替率ニ依リ通貨ヲ以テ支給ス

第十一條 本規則ニ定メナキ事項ハ小學校令施行規則ニ據ル

以上



I-0323

